BZ-2-15
1200600099742

2602
8

衆議院守衛必携

全

禁電

BZ
2
15

大正十四年八月改正

衆議院守衛必携

全

衆議院守衛必携

目次

○守衛勤務……一
○議院徽章……二七
○守衛禮式……三二
○守衛休暇規則……三八
○手帳及名刺ニ關スル心得……四二
○點檢……四四
○守衛長委任事項……四九
○議院ノ警察令外二件……五〇
○水管車操法……五一

BZ
2
15

I種
W

12006000099742

○衆議院事務局官制……六六
○貴族院衆議院守衛定員給與令……六八
○貴族院及衆議院守衛待遇……七一
○貴族院並衆議院守衛懲罰……七一
○奏任文官特別任用令（兩院守衛長特別任用）……七二
○判任文官特別任用令（兩院守衛副長特別任用）……七二
○衆議院守衛採用規則……七三
○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制……七八
○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服裝規則……九六
○守衛給與品及貸與品規程……九八
○守衛非番勤務手當支給規則……一〇二
○貴族院並衆議院守衛長及守衛副長宿舍料（大正十年一月十二日勅令第三號）……一〇三
○守衛宿料支給規則……一〇三
○宿直及徹夜賄料給與規則……一〇四
○豫備後備ノ軍籍ニ在ル貴族院及衆議院ノ守衛ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノニ休職ヲ命スルノ件……一〇四
○官吏服務紀律……一〇五
○巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令……一〇九
○議院法拔萃……一一三
○衆議院規則拔萃……一一五
○刑事訴訟拔萃……一一六
○刑法拔萃……一一九

○恩給法……一二二
○衆議院事務局分掌規程……一二三

守衛勤務（大正十四年八月一日改正）

通則

第一條　守衛ハ議會開會中議長ノ指揮命令ニ依リ危害ヲ防止シ秩序ヲ保持シ議院警察ノ實行ニ任スルヲ本旨トス

第二條　事ニ當リテハ鄭寧敏活ヲ旨トシ苟モ放漫疎惰ニ渉ル事ナキヲ要ス

第三條　人ヲ制止シ又ハ注意ヲ加フル場合ニハ懇切温和ヲ旨トシ苟モ倨傲ノ言辭ヲ用ユヘカラス

第四條　非常事變ニ際シテハ剛毅敏速ニ其ノ職務ヲ盡シ怯懦ノ所爲ニ出ツヘカラス

第五條　上官ヲ尊重シ同僚相互ニ親愛協力シテ專心其ノ職ニ任スヘシ

第六條　守衛ハ品位端正ニシテ居常注意戒慎ヲ加ヘ其ノ職務ニ對スル威嚴

信用ノ保維ニ勉ムヘシ

第七條　守衛ハ服務規定ニ精通スルノ外議院法及衆議院規則ノ大要ヲ領得スルヲ要ス

細則

第八條　開期中ハ守衛全員ヲ分テ甲、乙、丙ノ三部ト爲ス守衛ハ監督者ノ指揮ヲ受ケ其勤務ニ服シ各輪番ニ宿直スヘシ

第九條　守衛班長ハ守衛副長ヲ助ケ守衛ノ配置監督其ノ他ノ職務ニ付之ニ代理スルコトヲ得

第十條　守衛ハ議場、傍聽席其ノ他院内ノ取締並ニ受付、傍聽人受付、立番、巡邏、門衛ノ勤務ニ服ス

第十一條　守衛ハ左ニ掲クル方法ニ從ヒ勤務ニ服スヘシ

第一、議場

一、議場ノ出入口ヲ監守スヘシ

二、議長、書記官長ノ命ヲ奉シ議場ノ取締ニ從事スヘシ

三、議場閉鎖

議場閉鎖心得

一、閉鎖ノ命アルトキハ議場第一號立番守衛ハ速ニ廊下第二號立番守衛ニ報シ廊下第二號立番守衛ハ直ニ廊下第三號立番守衛ニ傳達シテ議場第一號立番守衛ハ第一號出入口ヲ内部ヨリ閉鎖シ廊下第三號立番守衛ハ第三號出入口ヲ外部ヨリ閉鎖ス

議場第二號立番守衛ハ廊下第四號立番守衛ニ報シ議場第二號立番守衛ハ第七號出入口ヲ内部ヨリ閉鎖シ廊下第四號立番守衛ハ第五號出入口ヲ外部ヨリ閉鎖シテ各監守スヘシ

二、開鎖ノ命アルトキハ議場立番守衛ハ速ニ第一號第七號出入口ヲ開鎖シ外部出入口監守ノ守衛ニ傳達シテ各舊位ニ復スヘシ

參照　衆議院規則

第十三章　警察及秩序

第一節　警察

第百七十一條　議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院內部ノ警察權ヲ施行ス

第百七十二條　守衛ハ議事堂內警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス

但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂內ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第百七十三條　議院內部ノ防火、點燈、導水、煖爐、及衛生ニ關スル事項ハ守衛之ヲ監督ス

第百七十四條　議院內部ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節　議場內ノ秩序

第百七十五條　議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロックコート」「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異樣ノ服裝ヲ爲スヘカラス但シ無地又ハ之ニ準スヘキ折襟背廣服ノ著用ヲ妨ケス

第百七十六條　議場ニ入ルモノハ帽子、外套、傘、杖ノ類ヲ著用携帶スヘカラス

第百七十七條　議場內ニ於テ喫煙スヘカラス

第百七十八條　議事中ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除クノ外新聞紙及書籍等ヲ閱讀スルコトヲ得ス

第百七十九條　何人モ議事中賛聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

第百八十條　何人モ議長ノ許可ナクシテ演壇ニ登ルコトヲ得ス

第百八十一條　議長號令ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈默スヘシ

第百八十二條　散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

第百八十三條　凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第二、傍聽席

一、傍聽人ノ入リ來リタルトキハ先ツ傍聽券ヲ點檢シ其ノ著スヘキ席ヲ指示スヘシ但シ貴族院議員ニシテ議員徽章ヲ佩用スルモノニ付テハ此ノ限リニ在ラス

二、傍聽席勤務ニアリテハ議場ヲ背面ニシ傍聽人ニ直面シテ其受持區內ヲ監守ス可シ

三、傍聽人規則ヲ背キタル行爲アルカ又ハ不行跡アルトキハ注意ヲ加ヘ必要ト認メタル場合ハ警務課ニ同行ス可シ

四、議長傍聽人ヲ退場セシム可キヲ命シタルトキハ速ニ各所ノ出入口ヲ開放シテ便宜場外ニ退出セシム可シ但シ一部分ノ傍聽人ニ對シテ退場ヲ命シタルトキハ其情況ニ依リ速ニ臨機ノ所置ヲ取ルコトヲ要ス

五、傍聽席喧噪ナルトキハ之ヲ制止ス可シ

第三、受付及傍聽人受付

一、皇族來院アルトキハ先ツ皇族室ニ奉導シ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

二、宮內官及外國大公使ニシテ傍聽ノ爲來院シタルトキハ貴賓席ニ案

内シテ名刺ヲ求メ守衛長ニ報告スヘシ

三、面會ヲ求ムルモノアルトキハ名刺ヲ出サシメ面會人名簿ニ登記シタル後之ヲ本人ニ通知シ其承諾アルトキハ面會人ヲ面談室ニ案内スヘシ

四、書狀類及電信到達シタルトキハ書狀收受簿ニ登記シ議長宛ハ秘書課ニ院名、局名宛ハ庶務課ニ其ノ他ハ宛名ニ屆ケ收受簿ニ領收ノ印ヲ受クヘシ

五、發送書狀類ノ交付アルトキハ書狀發送簿ニ登記シ書狀取扱ノ手續ニ依リ送付スヘシ

六、傍聽人入場セントスルトキハ傍聽券ヲ點檢シ其ノ當日限リニ係ルモノハ施線ヨリ截斷ノ上券面ニ認印シ其ノ小片ハ取纏メ員數計算ノ用ニ供スヘシ一會期間ニ通スル傍聽券ニ對シテハ名刺ヲ請求シ其ノ

名刺ニ認印シテ所持セシムヘシ

七、傍聽人ノ入場ニ際シ身體ノ搜査ヲ爲スニハ周到懇切ヲ旨トシ苟モ粗暴ニ渉ラサル樣注意スヘシ

八、傍聽人喫飯等ノ爲外出スルトキハ傍聽券ヲ預カリ復ヒ入場スルニ際シテハ更ニ身體ノ搜査ヲ施シタル上之ヲ返付スヘシ

九、月日等訂正シタル傍聽券ニシテ守衛長ノ印章ナキモノヲ所持シタルトキハ入場セシムヘカラス

十、傍聽人戎器、兇器、其他怪シキ物件ヲ携帶シ又ハ擧動怪シキモノアルトキハ傍聽券ヲ所持スト雖其ノ入場ヲ止メ守衛長ノ指揮ヲ請フヘシ

十一、傍聽人ヲ入場セシメタル後一時間毎ニ傍聽人現在員ヲ計算シテ守衛長ニ報告スヘシ

參照　傍聽券裏面

傍聽人心得

一、傍聽券ノ表面ニハ紹介議員ノ氏名ト傍聽人ノ宿所氏名トヲ記入スヘシ

一、傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

一、傍聽人ハ守衛又ハ警察官吏ニ身體ノ搜査ヲ受クルコトアルヘシ

一、何等ノ理由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

一、傍聽人傍聽席ニ在ルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一、羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ

二、帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス

三、傘、杖、鞄、包物ノ類ヲ携帶スヘカラス

四、飲食又ハ喫煙スヘカラス

五、議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六、喧擾ニ渉リ議事ヲ妨害スヘカラス

一、戎器兇器ヲ携帶シタルモノ、酩酊シタル者、十二歲未滿ノ者、其ノ他議長ニ於テ取締上必要アリト認ムル者ハ傍聽券ヲ有スト雖傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

一、衆議院門内ニ於テ「ステツキ」仕込杖ノ類ヲ携帶スヘカラス

一、開議後一時間ヲ經過スルトキハ入場ヲ謝絕スルコトアルヘシ

但シ取締上必要ノ場合ニハ時間ニ拘ラス入場ヲ謝絕スルコトアルヘシ

一、散會ノ際ハ議長退席ノ後退場スヘシ

一、傍聽人若シ傍聽券ヲ紛失シタルトキハ退場セシムルコトアルヘシ

一、此ノ傍聽券ハ當日限リ通用スルモノトス

第四、立番及巡邏

一、立番ハ指定ノ場所ニ立チ其ノ部内ヲ監守スヘシ

二、院内不案内ノ者ト認ムルカ又ハ其ノ案内ヲ求ムル者アルトキハ懇切ニ指示スヘシ

三、國務大臣ノ外議院徽章又ハ院内通行證ヲ携帯セスシテ院内ヲ通行スルモノアルトキハ之ヲ制止シ必要ト認ムルトキハ警務課ニ同行スヘシ

四、議院徽章ヲ佩用スト雖擧動怪シキモノアルヤ否ヤヲ査察シ必要ト認ムルトキハ警務課ニ同行スヘシ

五、議院徽章ニ類似シタル徽章其ノ他私制徽章ヲ佩用スルモノアルトキハ之ヲ取リ除カシメ必要ト認ムルトキハ警務課ニ同行スヘシ

六、官吏入場章、傍聽章、通章等別ニ佩用心得書ノ附帶スヘキ徽章ニ付テハ其ノ徽章ト共ニ佩用心得書ノ點檢ヲ施シ之ヲ携帶セサルモノハ入場セシムヘカラス

七、許可證ヲ携帶セスシテ院内其ノ他室内ヲ撮影セントスル者アルトキハ之ヲ制止スヘシ

八、守衛ハ勤務中緊急其ノ他止ムヲ得サル場合ニ際シ勤務位置ヲ離ルルコトアルトキハ隣接勤務ノ守衛ニ其ノ旨ヲ告ケ其ノ勤務ヲ兼番セシムヘシ

九、撮影許可證ヲ携帶スルモ「マクネシユーム」其ノ他爆發性ノ薬品ヲ使用セントスル者ハ之ヲ制止スヘシ

十、院内ニ於テ戎器兇器其ノ他怪シキ物件ヲ密ニ携持スルモノナキヤ否ヤヲ注意スヘシ

十一、廊下ニ佇立シテ通行ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ之ニ注意ヲ加フヘシ

十二、廊下ニ通行ノ妨害ト爲ル物品ノ存在スルトキハ當該係官ニ注意スヘシ

十三、廊下其ノ他ノ場所ニ不潔物ノ有無、賄所、便所ノ掃除消毒及飲食物ノ良否等總テ衞生ニ關スル事項ニ注意スヘシ

十四、建物、飾付品、備品、及上水、下水等ノ破損又ハ構内ニ於ケル植物ノ轉倒、枯死ノ有無ニ注意スヘシ

十五、夜間ハ巡邏ノ都度特ニ火ノ元、戸締其ノ他ノ取締ニツキ注意シ豫テ備ヘアル點檢表ニ捺印スヘシ

第五、門衞

一、出入口ヲ査察スヘシ

二、物品ヲ搬出スルモノアルトキハ之ヲ檢査シ警務課又ハ庶務課ノ送證ナキモノハ何品ニ拘ラス其搬出ヲ止メ守衞長ノ指揮ヲ請フヘシ

但シ議員、國務大臣、政府委員ハ此ノ限リニ在ラス

第十二條　守衞ハ其ノ受持管區ヲ點檢シ點檢表ニ捺印シ異狀アルトキハ守衞長ニ報告スヘシ但シ破損ノ箇所ニハ月日ヲ記載シタル小札ニ捺印シ之ヲ貼付シ置クヘシ

點檢ノ事項ハ大約左ノ如シ

一、火ノ元

二、電線、電燈、電話、蒸汽罐、煖房、火鉢、

三、消火機關、消火栓、消防器具、

四、扉及窓戸、戸締、

五、室内、廊下及敷物、窓掛、其ノ他ノ備付品

第十三條　守衞ハ各管區ニ係ル鎖鑰ヲ保管スヘシ

第十四條　守衞ハ各管區ヲ互ニ援助シテ勤務ニ服スヘシ

管區	室名
第一管區（階下）	副議長室、交渉室、議長室、議長應接室、書記官長室、書記官長應接室、大臣休憩室、秘書課、警務課、傍聽人受付、面會人受付、第一面談室、第二面談室、郵便局、守衛室、小使室、湯呑所、洗面所、第二守衛休憩所、公衆便所、下足預所（二箇所）、派出警察官詰所、傍聽人休憩所、議員車夫溜、議員自動車運轉手溜、第一守衛休憩所、舊道場、發動機關室、便所、

第二管區（階下）	玄關、議員控室、議員控室、整衣所、議場、物置、物置、物置、議員控室、議員控室、政府委員室、兩院協議室、議員控室、議員洗面所、議員便所、休憩所、醫務室、煖房汽罐室、議事課、書記官室、物置、事務員便所、警官詰所、
第三管區（階下）	庶務課、同支室、同會計、速記課、事務員食堂、賄所、煖房汽罐室、議員食堂、書庫、電話交換室、守衛寢室、理髮所、湯殿、圖書館、倉庫、印刷局出張所、倉庫、議員倶樂部、電燈會社出張所、製本所、大工詰所、物置、消防用梯子置場、

第四管區（階上）	議員控室、議員控室、議員控室、議員控室、議員控室、議員控室、議員控室、傍聽人控室、傍聽人便所、議員控室、新聞記者通路、議員控室、新聞記者室、委員室、委員室、
第五管區（階上）	議員控室、議員控室、傍聽席、委員室、政府委員控室、政府委員控室、政府委員控室、政府委員控室、政府委員控室、政府委員控室、豫備室、委員課、委員課、議員洗面所、議員便所、
第六管區（階上）	委員室、委員室、懲罰委員室、請願委員室、豫算委員室、決算委員室、委員室、委員室、豫備室、議員喫茶室、豫備室、委員室、委員室、

第十五條　守衛室ニ一名宛ノ不寢番ヲ置キ非常其ノ他ノ用務ニ充テ書狀類ノ受付ヲ爲サシムヘシ、不寢番者ハ交代勤務ノ就寢者ヲ呼ヒ起シ且ツ郵便集配時限內ハ一時間每ニ郵便函ヲ開キ其郵便物ヲ取纒ムヘシ書狀類ノ到達シタトキハ書狀收受簿ニ登記シ守衛副長ニ於テ至急公文ト認ムルモノハ專使又ハ急使ヲ以テ卽刻之ヲ送達シ取扱タル事項ノ緊要ト認ムルモノハ守衛副長ニ於テ日誌ニ記載スヘシ

第十六條　院內ニ於テ逮捕シタル犯罪人ハ直ニ警務課ニ拘引シテ守衛長ノ指揮ヲ待ツヘシ

第十七條　逮捕犯人ニ對シテハ其住所氏名年齡ノ外何事タリトモ訊問スルコトヲ得ス

第十八條　犯罪アリタル場合ニ於テハ犯罪人ヲ逮捕スルト同時ニ證據物件

ヲ押收スヘシ必要ト認ムル時ハ其現狀保存ニ注意スヘシ

第十九條　犯罪人ヲ引致シ又ハ犯則者ヲ同行スルニ當リ許可ナクシテ之ヲ守衛室又ハ其ノ他ノ室内ニ連行ス可カラス

第二十條　院内ニ於テ公私物品ノ紛失ヲ發見スルカ若ハ其報知ヲ受ケタルトキハ直ニ搜査ニ著手シ且之レヲ守衛長ニ報告スヘシ

第二十一條　前條ノ場合ニ於テ犯罪アリト思料スルトキハ嫌疑者ノ踪跡ヲ失ハサル樣注意シ便宜守衛長ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十二條　院内ニ於テ遺留品又ハ遺失品ヲ認メタルトキハ之ヲ警務課ニ持參シ日時場所ヲ報告スヘシ

遺失品拾得ヲ屆出ツル者アルトキハ拾得者ヲ警務課ニ同行スヘシ若同行スル能ハサルトキハ其ノ者ノ住所氏名年齡及拾得ノ日時場所ヲ聽取リ之ヲ守衛長ニ報告スヘシ

第二十三條　守衛ハ議院ヨリ一時間以内ニ到達スヘキ場所ニ居住スヘシ

第二十四條　新ニ守衛ヲ命セラレタル者ニシテ前條ノ規定ニ適合セサル者ハ十日以内ニ轉住スヘシ但シ止ムヲ得サル事情アルモノニ限リ守衛長ニ於テ特ニ延期ヲ許可スルコトヲ得

第二十五條　守衛長ハ特ニ警戒ヲ要ス可キ事件及火災近火ノ際ハ書記官長ノ命ヲ承ケ守衛ノ非常召集ヲ發令ス

第二十六條　非番員外出ニ際シテハ家人ニ其ノ行先キヲ告知シ常ニ應召ノ用意ヲ爲シ置クヘシ

第二十七條　非常召集ノ命令ヲ受ケタルトキハ即時制規ノ服裝ヲ爲シテ參著シ名刺ヲ守衛長ニ提出シテ指揮ヲ待ツヘシ

第二十八條　非常應召ノ便ヲ計ル爲メ各守衛ハ電話、電報ノ配達取次等便宜ノ方法ニ付テハ豫メ警務課ニ申告シ置クヘシ

第二十九條　守衛ハ毎朝執務時間前ニ點檢及執務ニ關スル訓示ヲ受ケ又ハ應問ヲ爲スヘシ

第三十條　休憩中ハ喧噪又ハ不行跡ニ渉ラサル樣注意シ且ツ濫ニ其ノ居室ヲ離ル可カラス

第三十一條　守衛ハ正裝シタルトキ杖、傘、襟卷、呼吸器等ヲ用ユ可カラス

第三十二條　病氣其ノ他事故ニヨリ闕勤スルトキハ出勤時刻前ニ其事由ヲ屆ケ出ツヘシ但シ開會中ハ醫員ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第三十三條　病氣引籠二日ニ渉ルトキハ閉會中ト雖モ醫員ノ診斷書ヲ添ヘ屆出爾後七日目毎ニ同樣ノ手續ヲ爲スヘシ但シ守衛長ノ特許アルトキハ七日目毎ニ此ノ手續キヲ爲スヲ要セス

第三十四條　父母、妻及ヒ子ノ重患ニ際シ看護引籠リヲ爲サントスルトキハ主治醫ノ診斷書及其ノ歸省ヲ要スルモノハ其事實ヲ疏明スヘキ書類ヲ添付シテ願出ツヘシ

第三十五條　忌引屆ニハ死者ノ氏名其ノ續柄死亡地ヲ記シ守衛長ニ提出スヘシ

第三十六條　急變火災及近火ノトキハ非常召集ノ命ヲ受ケサルモ直ニ參院シテ指揮ヲ待ツヘシ

第三十七條　火災アルトキハ監督者ニ急報シ出火ノ際ハ直ニ消火栓ノ放水ヲ爲シ近火ノトキハ其ノ準備ヲ整ヘテ指揮ヲ待ツヘシ

第三十八條　火勢蔓延シテ消火栓ノ放水微弱ナリト認メタルトキハ放水發動機ノ運轉ヲ爲ヘシ

第三十九條　放水發動機ヲ運轉セントスルトキハ左ノ用意ヲ整タル後ニ非サレハ動力ヲ發生セシム可カラス

一、發動機關附著ノ水道吸入螺栓ノ開通

二、發動機關附著ノ水道發送螺栓ノ開通
三、揮發油注入栓ノ開通
四、機關冷却水栓ノ開通
五、院内備付水管栓ノ開通

第四十條　火勢蔓延スヘシト認メタルトキハ左ノ順序ニ依リ書類物品ヲ一定ノ場所ニ搬出シ且ツ監守者ヲ附シ置クヘシ

一、重要書類
　重要書類トハ各課ニ於テ豫テ運搬ニ便ナル簞笥其ノ他ノ容具ニ「重第一號」「重第二號」等ノ文字ヲ貼付シ在ルニツキ順序ニ從ヒ搬出スヘシ
二、議長、副議長、書記官長ノ肖像額面、其ノ他貴重ノ物品
三、普通物品

第四十一條　出火ノ場合ニハ直ニ倉庫ノ扉ヲ閉鎖シ各室及各昇降口ハ扉ヲ開放スヘシ其ノ他監督者ノ指揮ヲ受ケ臨機ノ處分ヲ爲スヘシ

第四十二條　守衛ハ給仕、小使、火夫、其ノ他ノ傭人ヲ監督シテ怠慢喧噪其ノ他不行跡ノ行爲ナカラシムヘシ

第四十三條　守衛ハ毎月取扱ヒタル事務報告表ヲ作リ守衛副長ヲ經テ守衛長ニ差出スヘシ

第四十四條　守衛ハ服務規定ニ精通スルノ外擊劍柔道及放水發動機消火栓取扱方ヲ練習スヘシ

公用書類發送手續

第一條　使ノ差立ヲ左ノ四種ニ分ツ
一、特　使
特使ハ特定ノ使人ヲ乘車セシメ發送スルモノトス

二、急　使
急使ハ自轉車ニテ發送スルモノトス
三、專　使
專使ハ一人ノ小使ヲシテ特ニ一通ヲ發送セシムルモノトス
四、並　使
並使ハ一人ノ小使ヲシテ同時ニ數通ヲ發送セシムルモノトス
五、右第一、第二、第三ノ場合ニ於テモ止ムヲ得サルトキハ便宜一人ヲシテ數通ヲ發送セシムルコトヲ得
第二條　發送スヘキ書類ハ受付擔當ノ守衛ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ
第三條　書類ヲ發送スルトキハ式ニ據リ先ツ發送簿ニ登記シタル後之ヲ發送スルモノトス但シ同時ニ多數ノ書類ヲ發送スルトキハ乙號發送簿ヲ用ユルコトヲ得

第四條　發送簿ヘ記入スルニハ發送ノ證ヘ番號年月日時刻宛名差出名ヲ記入シ取扱者使者共ニ捺印シ然ル後領收證ヘ番號、年月日、宛名、又ハ書類何通ト記入シ取扱者之ニ契印ス
第五條　前條ノ如ク記入シ了リタル後「領收證」ハ截斷シテ之ヲ使者ニ交付シ使者ハ該書類ヲ發送シタルトキ其ノ接手者ノ記名捺印竝ニ時刻ノ記入ヲ得テ之ヲ最初交付シタル守衛ニ返納シ守衛ハ之ヲ發送ノ證ニ貼付シテ保存スルモノトス

議　院　徽　章

第一條　院內ヲ通行セントスル者ハ必ス徽章ヲ佩用スルコトヲ要ス
但シ國務大臣ニ在リテハ此ノ限リニ在ス

第二條　徽章ヲ分ツテ左ノ數種トス

一、衆議院議員徽章

本徽章ハ兩院協議會又ハ特ニ議員ノ傍聽ヲ禁シタル委員會ノ外出入ニ制限ナシ

二、貴族院議員徽章

本徽章ハ院内ヲ通行シ又ハ本院ニ於ケル貴族院議員傍聽席ニ入場スルコトヲ得但シ議場及委員室ニ入場スルコトヲ得ス

三、政府委員徽章

本徽章ハ議場ニ於ケル政府委員席ニ著席スルコトヲ得ルノ外其ノ効力議員徽章ト異ル所ナシ但シ議場ニ入場スルコトヲ得ス

四、内閣書記官及各省秘書官用徽章

本徽章ハ貴衆兩院内ヲ通行シ及本院ニ於テ公務處辨ノ爲議場ニ於ケル政府委員席及各委員室ニ出入シ又傍聽ニ付テハ外國交際官席ニ空席アル場合之ニ入場スルコトヲ得

五、官吏入場徽章　帶用心得書添付

本徽章ハ各省高等官、判任官ニ共通シ兩院内ヲ通行シ政府委員室ニ入場スルコトヲ得但シ傍聽席又ハ委員室ニ入場セントスルトキハ別ニ傍聽券及委員室出入證ヲ要ス

六、甲種通章　帶用心得書添附

本徽章ハ前衆議院議員ニシテ現ニ政黨事務ニ從事スル者ニ限リ交附スルモノニシテ院内ヲ通行スルコトヲ得但シ傍聽席又ハ委員室ニ入場セントスルトキハ別ニ傍聽券及委員室入場證ヲ要ス

七、乙種通章　帶用心得書添附

本徽章ハ政黨事務員ニ交附シ其効力甲種通章ト同一ナリトス

八、傍聽章　帶用心得書添附

本徽章ハ日刊新聞、通信社、ニ交附シ貴衆兩院内ヲ通行シ及記者傍聽席ニ著席スルコトヲ得但シ委員會出入證ヲ携帶スルニ非レハ委員室ニ入場スルコトヲ得ス

同盟新聞記者總代徽章ハ總代記者タルヲ表明シ記者傍聽章ニ代用スルコトヲ得

九、新聞記者給仕章

本章ハ新聞通信原稿蒐集ノ爲記者傍聽席及各委員室ニ出入スルコトヲ得

政府委員室附給仕ニハ臨時本章ヲ佩用セシムルコトアルヘシ

十、衆議院高等官徽章

制限ナシ

十一、衆議院判任官徽章

本徽章ヲ佩用スルモ公務ノ外議場傍聽席委員室ニ入場スルコトヲ得ス

十二、衆議院雇員徽章

本徽章ヲ佩用スルモ公務ノ外議場傍聽席委員室ニ入場スルコトヲ得ス

十三、衆議院食堂賄方徽章

本徽章ハ食堂其ノ他特別ノ使命ニ依ル室内ノ外濫ニ廊下其ノ他ヲ徘徊スルコトヲ得ス

十四、貴族院高等官徽章

本徽章ハ本院ヲ通行シ及公務ノ爲議場内ニ於ケル政府委員席及各委員室ニ出入スルコトヲ得

十五、貴族院判任官徽章

十六、貴族院雇員徽章

十七、貴族院通章

右何レモ本院ヲ通行シテ貴族院ニ到ルヲ得

○守衛禮式

第一條　守衛制規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ本式ニ依リ禮式ヲ行フモノトス

第二條　本禮式中上班ト稱スルハ守衛班長、守衛副長、守衛長、警務課長、書記官長、及本院正副議長ヲ云フ

第三條　職務執行ノ爲メ止ヲ得サル場合ノ外上班ニ對シテハ必ス禮式ヲ行ヒ同班ハ互ニ禮式ヲ行フヘシ

第四條　禮式ヲ分テ最敬禮及敬禮ノ二種トシ又之ヲ分テ室內禮式及室外禮式ノ二種トナス

第五條　室內ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取リ直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對セシメ左手ヲ垂下シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クヘシ

室內ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ正面シ姿勢ヲ正シ其眼ニ注目シ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ左手ヲ垂下スヘシ

第六條　室外ノ最敬禮ハ正面ノ方向ヲ取リ直立シ兩足ヲ整ヘ右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍々外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ齊シクシ左手ヲ垂下シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ敬スヘキ人ニ注目スヘシ

室外ノ敬禮ハ敬スヘキ人ニ對シ姿勢ヲ正シ右手ヲ擧ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ左手ヲ垂下スヘシ

第七條　天皇、三后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、及皇族ニ奉對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ

外國ノ皇帝、皇后、及皇族ニ於ルモ亦前項ニ同シ

第八條　內閣總理大臣、各省大臣、及正式勅使ニ對シテハ敬禮ヲ行フヘシ

第九條　儀式祭典等ノ爲メ其場所ニ整列スルトキハ天皇、三后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、皇族ニ奉對シ又ハ其ノ儀式祭典ニ就キ禮式ヲ行フノ外ハ總テ敬禮セサルモノトス

第十條　整列シタルトキ又ハ隊伍ヲ爲シ行進スルトキハ其指揮ヲ掌ルモノノミ相當禮式ヲ行フヘシ

第十一條　警衛、消防、犯罪者看守、其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事中ハ禮式ヲ行フノ限ニ非ラス

第十二條　步行中物品ヲ携帶シ相當ノ禮ヲ行フ能ハサルトキハ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ一手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ但守衛ハ佇立シテ之ヲ行フモノトス

第十三條　職務上公衆ヨリ正當ニ禮ヲ受ケタルトキハ必ス之ニ答禮スヘシ

第十四條　敬禮ハ階級ノ異ナル人二人以上ニ對シテハ其ノ最高級ノ人ニ對向シ行フモノトス

第十五條　官署室內ニ入ルトキハ帽ヲ脫スヘシ

但下班ノ室內ニハ脫帽セサルモ妨ケナシ

第十六條　上班ノ室內ニ入ラントスルトキハ其ノ入口ニ直立シ來意ヲ告ケ指揮ヲ待ツヘシ上班入室ヲ許ストキハ其ノ席ヲ離ルルコト凡三四步ノ所ニ於テ敬禮スヘシ若數名アルトキハ先ツ最高級ノ人ニ敬禮シ次ニ他ノ一同ニ敬禮スヘキモノトス其ノ居室ヲ去ルトキモ亦同シ

第十七條　辭令書ノ類ヲ受クルトキハ授與者ノ席ヲ離ルルコト凡三四步ノ所ニ於テ敬禮ヲ行フノ後適宜ニ前進シ帽ヲ左脇ニ挾ミ右手ヲ以テ拜受シ左手ヲ副ヘテ披見シ直チニ之ヲ收メ舊位ニ復シテ再ヒ敬禮ヲ行ヒ退去スヘシ

第十八條　室内ニ於テ上班ヨリ書類其ノ他ノ物件ヲ受ケ或ハ之ヲ上班ニ呈スルトキハ前條ノ法ニ準シ右手ヲ以テ之ヲ受ケ或ハ之ヲ呈スヘシ若シ返簡又ハ領收書等ヲ受クヘキトキハ舊位ニ復シテ之ヲ待ツヘシ

上班ヨリ命令諭告等ヲ受ケ或ハ事ヲ上班ニ陳述スルトキモ上班ニ對シテノ距離進退ハ亦前條ニ同シ

第十九條　上班居室ニ來ルトキハ一同椅子ヲ離レテ敬禮スヘシ上班居室ヲ去ルトキ亦同シ

第二十條　同班又ハ下班ノ者居室ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同班ナレハ椅子ヲ離レテ答禮シ下班ナレハ其ノ儘答禮スヘシ

第二十一條　室内ニ於テ公事ヲ談スルトキ下班ノ者ハ椅子ヲ離レ立テ姿勢ヲ正スヘシ

但上班許可スレハ著席スルモ妨ケナシ

第二十二條　行幸行啓ニ遇フトキハ前驅ノ稍前ヨリ道路ノ一側ニ佇立シ車駕五六歩前ニ近クトキ最敬禮ヲ行ヒ五六歩過キ去ル迄其姿勢ヲ保ツヘシ

皇族及外國ノ皇帝、皇后、皇族ニ於ルモ亦同シ

第二十三條　議院内廊下ニテ上班ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ頭ヲ少シク受禮者ノ方ニ向ケ姿勢ヲ正シ又ハ駐立ノ際上班其傍ヲ通過スルトキハ上班ノ方ニ正面シ姿勢ヲ正シ禮意ヲ表スヘシ

第二十四條　上班ニ對スル毎日ノ禮式ハ其參院退院ノトキ又ハ特別ノ儀式アル場合ニノミ行ヒ其餘ノトキニ行遇トモ前條ノ式ニ依リ只禮意ヲ表スルモノトス

第二十五條　上班ト言語ヲ交ユルトキハ相當ノ敬禮ヲ行ヒタル後脱帽シ其姿勢ハ第六條第二項ニ依ル要談了ルトキハ再ヒ敬禮ヲ行フヘシ

第二十六條　乘車中上班ニ行遇フトキハ其儘姿勢ヲ正シ敬禮ヲ行フモ妨ケナシ

第二十七條　上班ト同行スルトキハ其左側或ハ後方ニ就クヲ禮トスレトモ爲ニ上班ニ不便ヲ與ヘ若クハ危險ノ恐アルトキハ適宜右側ニ就クモ妨ケナシ

第二十八條　狹隘ノ道路橋梁又ハ廊下階段等ニ於テ上班ニ出會シタルトキハ佇立シテ其通過ヲ待ツヘシ若シ進行中ナルトキハ便宜立戻リ上班ヲシテ己ノ通過ヲ待タシメサルヲ禮トス

第二十九條　立番及受付ノ勤務ニ服スルトキハ室內ト雖トモ著帽スヘシ守衛班長以上ノ其勤務ヲ監督巡視スルトキモ亦同シ

第三十條　貴族院ノ守衛及議院ヘ出張ノ警察官吏ニ對シテモ亦本式ニ準シ禮式ヲ行フモノトス

○守衛休暇規則

（大正十四年八月一日改正）

第一條　守衛半年以上皆勤シタルトキハ一週間、一年以上皆勤シタルトキハ三週間ノ慰勞休暇ヲ與フ

第二條　皆勤日數ハ左記ノ日ヨリ起算シ三百六十五日ヲ一年トス

一、新任ノ者ハ就務ノ日
一、闕勤ノ者ハ出勤ノ日
一、休暇證ヲ付與セラレタル者ハ付與ノ日
一、懲戒處分ヲ受ケタル者ハ其ノ翌日

第三條　左ノ日數ハ勤務日數ニ算入ス

一、非番
一、職務上ノ負傷治療
一、慰勞休暇

第四條　左ノ日數ハ勤務並ニ闕勤日數ニ算入セス

一、父母ノ祭日

一、遠慮及忌引
一、點呼及召集、傳染病ノ爲隔離又ハ交通遮斷中
一、休職

第五條　皆勤者ニハ左ノ休暇證ヲ付與ス

表

休暇證
守衛　氏　名
半年間皆勤ニ付爲慰勞一週
一年間休暇ノ證トシテ之ヲ付與ス
年　月　日
衆議院

裏

休暇日數	自何月何日	至何月何日		

第六條　休暇證ヲ付與セラレタル者休暇セントスルトキハ守衛長ノ承認ヲ受クヘシ

第七條　休暇規則第一條ノ休暇日數ヲ分割シ數回ニ與フル場合ハ隔日勤務ノ者ニ對シテハ一回ノ休暇日數ハ當番ヨリ起算シ偶數ナルコトヲ要シ三部勤務ノ場合ハ日勤當日ノ外次キノ第二日、第三日ハ之ヲ分割スルコトヲ得ス但シ隔日勤務者ノ殘餘休暇日數ノ奇數ナルトキ及三部勤務者ノ殘餘休暇日數ノ最終日ニシテ第二日ニ相當スルトキハ此限ニ在ス

第八條　休暇證ヲ付與シタル後ト雖モ勤務ノ都合ニ依リ之ヲ中止スルコトアルヘシ

第九條　休暇證ハ付與ノ日ヨリ起算シ一ヶ年限リ有効ノモノトス
但シ第七條ノ場合ニ於テハ中止日數ニ應シテ之ヲ延期ス
休暇證付與ノ後懲戒處分ヲ受ケタル者ハ其効力ヲ失フモノトス

第十條　有効ノ休暇證ヲ遺失シ若ハ滅失シタルトキハ速ニ屆出ツヘシ

○手帳及名刺ニ關スル心得

一　手帖ハ守衛タルノ證トスルモノナレハ正裝ヲナシタルトキハ必ス携帶スヘシ若シ職務執行ノ際其ノ關係者之ヲ見ンコトヲ求メタルトキハ印章ノ部ヲ示スヘシ

二　職務上關係ノ事項ヲ見聞シタルトキハ之ヲ手帖ニ詳記スヘシ

三　手帖ニ記入スル事項ハ其ノ一件毎ニ○印ヲ冐頭ニ附シ件別ノ分界ヲ明ニスヘシ

四　手帖ヲ裂キ取リ又ハ汚損スヘカラス

五　手帖全葉書盡シタルトキハ之ヲ差出シ點檢ヲ受ケ新帖ト引換ヲ請フヘシ

六　手帖ハ公務外ノ事件ヲ記入スルヲ許サス

七　名刺ハ厚紙ニテ製シ左式ニ從テ明瞭ニ記載シ常ニ五枚以上手帖ノ間ニ挿ミテ所持スヘシ

縱曲尺三寸

横曲尺

一寸五分

衆議院
守衛　氏
名

守衛班長ハ守衛ノ肩ニ守衛班長ノ四字ヲ記入スヘシ

八　職務執行ノ際關係者ヨリ名刺ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付スヘシ

九　公務上他官衙其ノ他ノ場所ニ至リ謁ヲ求ムル時ハ此名刺ヲ出スヘシ

○點　檢

第一條　點檢ハ毎日執務時限前ニ之ヲ行ヒ守衛ノ員數容儀貸與品及携帶品ヲ點檢シ併テ當日執務ノ要領ヲ訓示スルモノトス

第二條　點檢ハ守衛長之ヲ執行シ號令司ハ守衛副長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　號令司ハ點檢時刻ニ至レハ呼子笛ヲ鳴シ點檢場ニ集メ一列或ハ二列ニ整頓シテ列ノ右翼ニ著クヘシ

第四條　號令司ハ全員集合シタルトキハ列ノ中央前若干歩ノ前ニ進ミ列ニ面シテ順次左ノ令ヲ下ス

一、「氣ヲ付ケー」

此令ニテ列員ハ姿勢ヲ正シ兩足ヲ整ヘ踵ヲ密接シテ體ヲ一線上ニ置キ兩爪先キハ凡ソ五寸扇形ニ開キ直立シテ手ヲ垂下シ肘ヲ伸シテ兩掌ヲ少シク外部ニ開キ頭ヲ正直ニシ前面ヲ直視スヘシ

二、「番　號」

此令ニテ右翼員ヨリ順次番號ヲ唱ヘ左翼員ニ終ル

但シ後列員ハ前列員ト同番號ト知ルヘシ

三、「右ヘ準ヘ」

此令ニテ右翼員ヨリ二番以下ノ列員ハ肩ヲ並ヘ頭ヲ右ヘ向ケ右列員ノ胸部第二釦ヲ視正シク間隔ヲ取ル爲左手ヲ臍骨上部ニ當テ手甲ヲ前ニシ拇指ヲ後ニシ肘ヲ張リ右手ヲ垂下シ右翼ニ整頓スヘシ此ノ時號令司ハ右翼ニ在リテ整頓ヲ檢シ不整頓ナルトキハ「何番前又ハ何番後」ト呼ヒ全ク整頓終レハ前位ニ復シ左ノ令ヲ下ス

但シ後列員ハ前列ニ伴テ整頓シ凡二尺五寸ノ距離ヲ保ツヘシ

四、「直レ」

此令ニテ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ左手ヲ活潑ニ垂下スヘシ右終レハ號令司ハ舊位ニ復ス

第五條　守衛長臨場ノ場合ハ號令司ハ若干歩前ニ進ミ左ノ令ヲ下ス

一、「禮式」

此令ニテ一齊ニ禮式ヲ行フ

第六條　守衛長ハ號令司ヲ從ヘテ列員ヲ點檢シ終レハ列ノ中央若干歩ノ處ニ占位ス此ノ時號令司ハ左ノ令ヲ下ス

一、「手帖」

此令ニテ手帖ヲ右手ニ持チ肘ヲ直角ニ體ニ付ケ掌ヲ延ハシテ名刺ト共ニ開示スヘシ

二、「收メー」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

三、「捕繩」

此令ニテ前項ニ準シ捕繩ヲ示スヘシ

四、「收メー」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

五、「呼子」

此令ニテ右翼員ヨリ順次一聲ツツ鳴ラスヘシ

六、「收メー」

此令ニテ元ニ收ムヘシ

列員ニテ申告ヲ爲ヘキコトアルトキハ守衛長ノ六歩前ニ進ミ禮式ヲ行ヒ申告終レハ右ニ回轉シテ舊位ニ復スヘシ

七、「分レ進メ」

此令ニテ一齊ニ禮式ヲ行ヒ散解スヘシ

第七條　整列中正副議長書記官長臨場アルカ又ハ數歩前ヲ通過スルトキハ守衛長ハ「禮式」ノ令ヲ下シ列員ト共ニ敬禮ヲ爲ヘシ

但シ守衛長居合セサルトキハ號令司代テ此令ヲ下スヘシ

第八條　二列ニテ點檢スルトキハ第四條第四項「直レ」ノ令終リタル後場所ノ狀況ニ應シテ左ノ令ヲ下ス

一、「前列何歩前ヘ」「後列何歩後ヘ」何歩前又ハ後ヘノ令ニテ右翼員一名ハ前又ハ後ヘ前進又ハ退歩シテ整頓ノ基線ヲ示スヘシ

「進メ」ノ令ニテ前列員若ハ後列員ハ左足ヨリ前進又ハ退歩シテ右翼整頓線ニ入ルヘシ、此ノ場合ハ令ナクシテ第四條第三項ノ法ヲ取ルヘシ

號令司ハ整頓ノ終ルヲ見テ左ノ令ヲ下ス

二、「直レ」

此令ニテ前列員又ハ後列員ハ頭ヲ正面ニ復スルト同時ニ左手ヲ活潑ニ垂下スヘシ

第六條第六項迄ノ點檢終リタルトキハ左ノ令ヲ下ス

三、「前列何歩後ヘ進メ」又ハ「後列何歩前ヘ進メ」

此令ニテ舊位ニ復スヘシ

第九條　點檢外ノトキト雖トモ整列ヲ要スル場合ハ本則ニ依リテ號令ヲ下シ又ハ姿勢ヲ正ス可シ

○守衛長委任事項

（明治三十三年三月衆議院事務局分掌規程改正ノ結果守衛部長ハ警務課長大正十四年十一月五日改正）

第一　守衛ヲ部署シ其ノ處務細則ヲ定ムルコト

第二　暴行人若クハ犯罪人ノ議場ニ闖入シタル者ヲ逮捕スルコト

第三　傍聽人ニシテ議院法第八十九條及衆議院規則第百九十五條第一項各號ノ一ヲ犯シタル者アルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スコト

參照

衆議院規則第百七十四條議院部内ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

○議院ノ警察命令外二件

○明治二十四年十一月二十一日議長達（明治三十三年三月衆議院事務分掌規程改正ノ結果守衛部長ハ警務課長）

議院ノ警察ニ關スル命令ハ自今緊急ノ場合ヲ除ク外總テ守衛「部」長ヲ以テ之ヲ傳達ス此旨相達ス

政府派出警察官

○明治二十四年十一月二十一日　議長達

本院開會中傍聽人及面會人ハ衆議院門内ニ於テステッキ又ハ仕込杖ノ類ヲ携帶スルヲ許サス

○明治二十四年十一月三十日　議長達

自今議員ノ車夫ニ對シテモ本月二十一日ノ訓示ヲ適用スヘシ

○水管車操法

一、本操法ハ消火栓ノ使用方法ト其動作トヲ熟達セシムルヲ以テ目的トス

一、水管車ノ取扱ハ三名又ハ四名ノ消防員ヲシテ二個ノ水管ヲ纏輅セル一

輛ノ水管車ヲ操縱セシムルモノトス

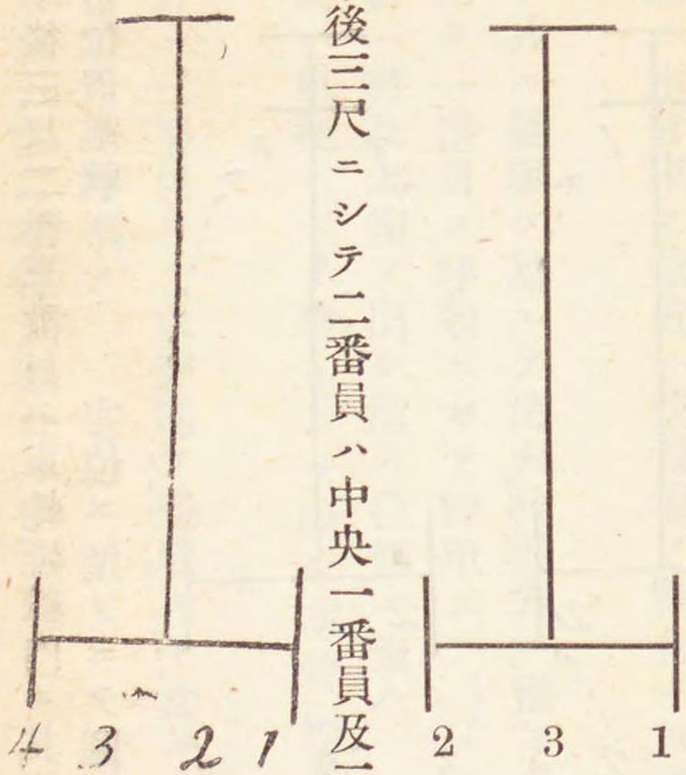
一、水管車ノ操作ニハ指揮者ハ左ノ號令ヲナス

1　車後整列及解散　　集レ及解レ
2　擔當位置進就　　定位ニ就ケ
3　放水開始　　消火栓放水掛レ
4　延長水管增加　　水管何個增加
5　放水位置轉換　　右(左)ヘ位置ヲ換ヘ
6　注水方向變換　　右(左)ヘ注水
7　放水停止　　止メ
8　器具收納　　收メ

一、消防員三名ノトキハ各員ニ一番ヨリ三番迄ノ番號ヲ付シ四名ナルトキハ四番迄ノ番號ヲ付ス

一、水管車ノ操作ハ左ノ順序ニ依ル

一、車後整列集レニテ圖ノ如ク

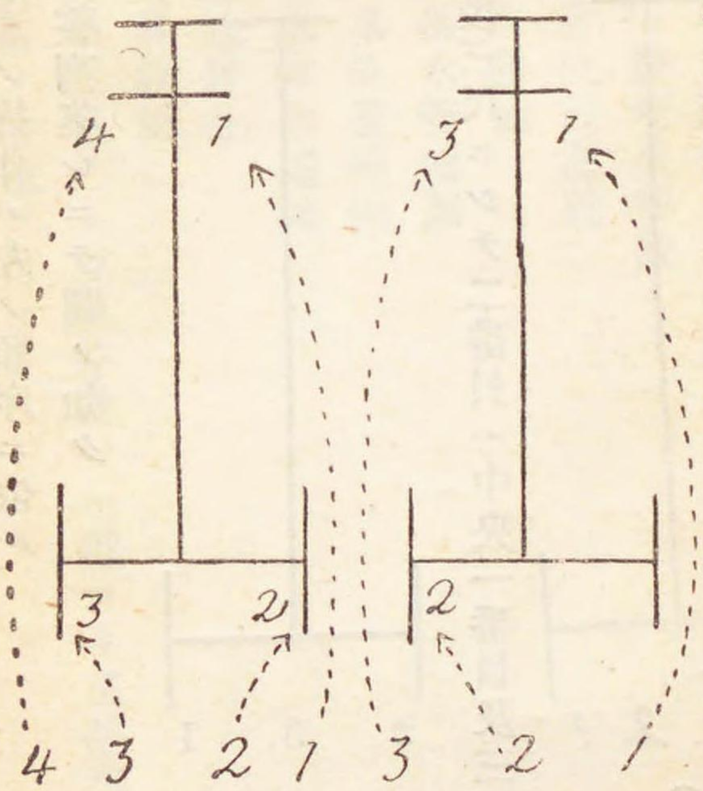


（三名操作）　（四名操作）

全員車後三尺ニシテ二番員ハ中央一番員及三番員ハ共ニ車輪延線ニ對ス

全員車後三尺二番三番員ハ車輪延線内ニ其他ハ各延線外トス

二、擔當位置進就　定位ニ進メニテ圖ノ如ク



（三名ノ場合）　（四名ノ場合）

定位ニ就クト共ニ猿木ヲ上ケ車後ノ者ハ内方ノ手ヲ車體ニ掛ク

三、放水開始　消火栓放水掛レ

發令前ノ水管車ノ位置ハ演習場ノ都合ニヨリ指揮者ニ於テ適宜撰定スヘシ

號令ト共ニ緩驅ケ足ニテ消火栓前方ニ進ミ車ノ中心カ消火栓ノ中心ニ對スル如ク一番員ノ呼唱ニヨリ停車ス

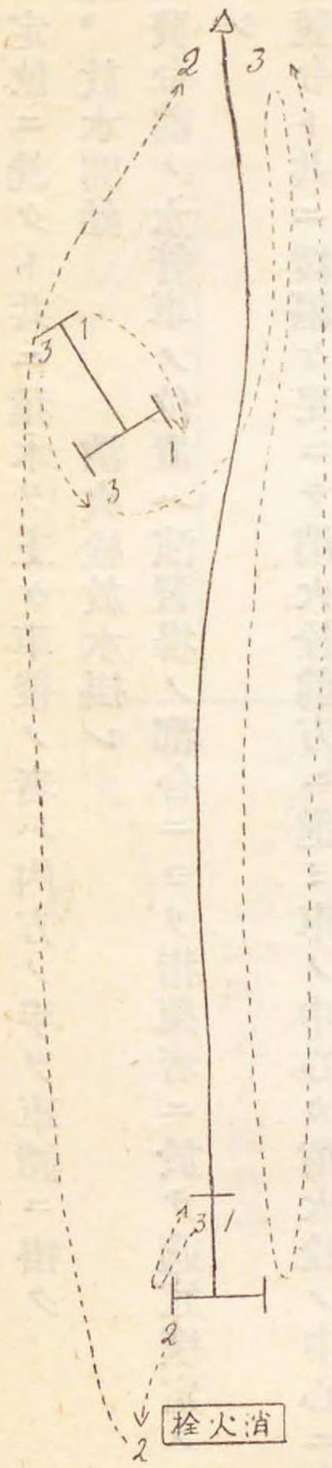
二番員ハ鍵及大箱ヲ出シ消火栓側ニ至ル

三番員ハ車後ニ至リ絡止メヲ脱シ水管端ヲ二番員ニ渡シ猿臂内ニ復歸ス

二番員ハ三番員ヨリ水管端ヲ受取ルト共ニ水管ニ約六尺ノ餘裕ヲ取リナカラ「ヨシ」ト呼唱ス

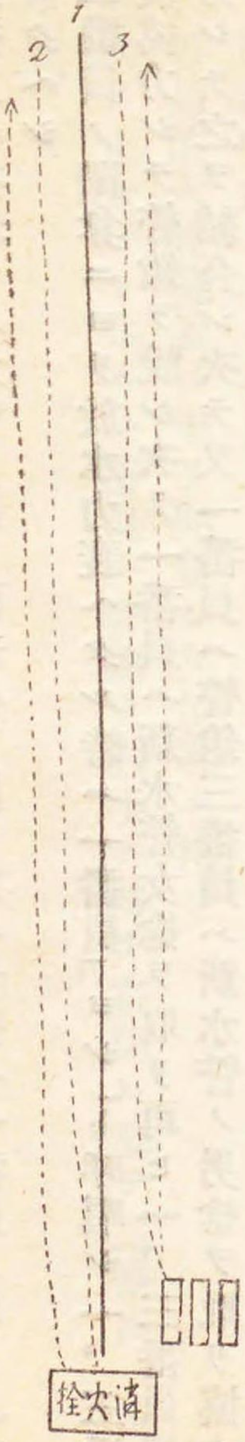
一、三番員協力水管ヲ延長ス

水管一個延長セハ一番員ハ「止レ」ト呼唱ス
三番員ハ車後ニ進ミ水管一個ヲ解ク
之ノ間一番員ハ猿臂外ニ出テ横ヨリ猿臂ヲ保持ス結合部出スル時ハ一番員ハ車後ニ廻リ三番員ト相對シ水管ヲ解キ次テ管鎗ヲ出シ互ニ左足ヲ出シ結合ス
二番員ハ水管一個延長スル迄之ヲ保持シ其後ハ足等ニテ之ヲ押ヘ鍵ヲ以テ消火栓ヲ開キ水管結合處置ヲ行ヒ大箱ヲ樹テ開辨ノ準備ヲナス
二、三番員ハ管鎗結合セハ火點ニ進入ス



一番員「始メ」ヲ呼唱ス
次テ三番員ハ傳令トシテ放水開始ヲ二番員ノ位置ニ至リ傳達ス
二番員消火栓ヲ開放シ筒先ノ位置ニ至リ一番員ノ後方ニ就ク
筒先位置ニ於ケル二番三番員ノ管鎗保持位置ハ圖示ノ通トス

四、延長水管增加　水管何個增加
增加用水管ハ教練ニアリテハ開始前消火栓附近ニ準備シ置クモノトス



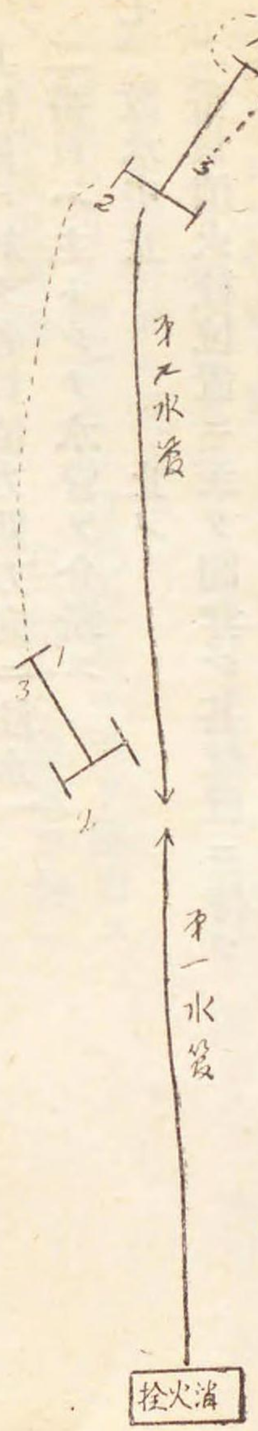
三番員ハ水管ヲ持チ來ル

二番員ハ消火栓ニ至リ閉弇二十秒乃至三十秒間ニシテ再ヒ開弇ス
三番員ハ持參セル水管ヲ解キ兩結合ヲ出シ殊ニ女捻ハ一番員ノ取リ易ク置クヘシ
二番員ノ閉弇ニヨリ放水力衰ヘタル時ハ一番員「ヨシ」ト呼唱シ一、三番員協力シテ管鎗ヲ脱シ次テ一番員ハ新水管女捻ヲ取リ再ヒ一、三番員協力シテ之ヲ結合シ次テ又一番員ハ管鎗三番員ハ新水管ノ男捻ヲ取リ協力結合シテ新位置ニ進入ス
二番員ハ再ヒ開弇セハ筒先位置ニ至リ協力ス
五、放水位置轉換　右(左)ヘ位置ヲ換ヘ

二番員ハ約二十尺後退水管ヲ持チ「ヨシ」ト呼唱シ次テ水管ヲ介錯ス
一、三番員協力新位置ニ就ク
二番員ハ一番員ノ後方ニ復皈ス
六、注水方向變換　右(左)ヘ注水
其位置ニ於テ各員協力新方向ニ注水
二番員ハ主トシテ水管ヲ介錯ス
七、放水中止　止メ
二番員消火栓位置ニ至リ開弇シ其位置ニ待ツ
放水ノ止マルト共ニ一番員ハ管鎗ヲ右手ニ持チ右側ニ立テ二番員ハ水管ヲ放ス
八、器具收納　收メ
一、三番員協力管鎗ヲ脱シ一番員之ヲ腰ニ下ケ次テ各水管結合ヲ離脱ス

二番員ハ消火栓閉塞處置ヲナシ大箱捻廻シ及ヒ消火鍵ヲ水管車函中ニ又一番員ハ管鎗ヲ函中ニ收メ各定位ニ就ク

延長增加用ノ水管ハ演習助手ヲ置キ之ヲ處理セシム

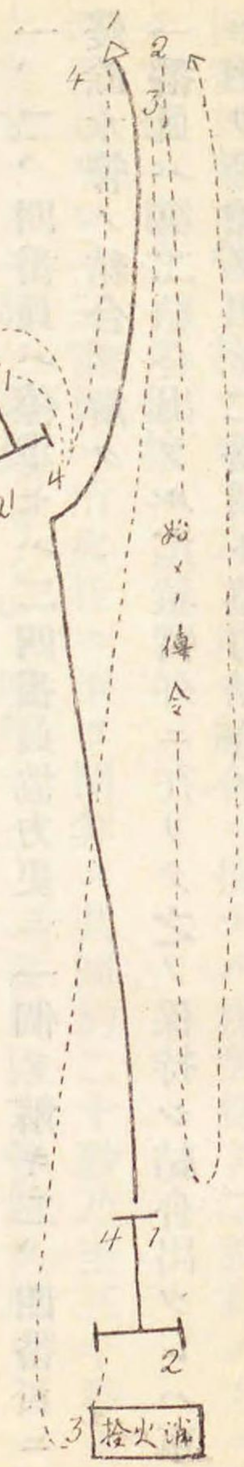


三名協力延長第二水管ノ端ニ至リ各員圖示ノ位置ニ就キ水管ヲ纏絡ス第二水管ノ約六尺端ニ至レハ一番員「繼ケ」ト呼唱ス

三番員ハ二番員ノ前方ニ至リ兩員協力互ニ左足ヲ出シ結合シ三番員ハ舊位ニ復シ再ヒ纏絡ヲ始ム

纏絡ヲ終レハ各員定位ニ就キ水管車ヲ曳キ整列位置ニ至リ水管車ヲ置キ車後整列ノ位置ニ整列ス

一、放水開始　（四名ノ場合）　消火栓放水掛レ



一番員ノ「止レ」ノ呼唱ニテ停車ス

二番員ハ鍵及大箱ヲ出シ消火栓側ニ置キ三番員ノ定位ニ移リ「ヨシ」ト呼唱ス

三番員ハ水管端ヲ取リ消火栓側ニ至リ水管端ニ多少ノ餘裕ヲ取リツツ之

ヲ保持ス

二番員ノ呼唱ニテ一、二　四番員協力シテ水管車ヲ進ム水管一個延長セハ一番員「止レ」ト呼唱ス

水管一個延長セハ三番員ハ水管ヲ置キ足等ニテ押ヘ消火栓ヲ開キ水管ヲ取付ケ大箱ヲ立テ送水準備ス

一、二、四番員ハ停車セハ二四番員協力更ニ一個ヲ解キ二、四番員ニテ殘餘水管ノ結合ヲ解ク

一番員ハ第二結合出ツル迄猿臂外ニ在リテ之ヲ保持シ結合出ツレハ車後ニ廻リ管鎗ヲ出シ二番員ト協力結合ス

此間四番員ハ解キタル水管ヲ介錯ス

一、二番員ハ管鎗結合終レハ協力火點ニ進入ス四番員之ニ續行ス

火點ニ進入セハ一番員ノ呼唱ニテ二番員消火栓ニ至リ三番員ニ「始メ」ヲ

傳達シ直ニ圖示ノ位置ニ復歸ス

三番員ハ「始メ」ノ傳達ニヨリ放水處置ヲ取リ直ニ圖示ノ位置ニ就ク

二、延長水管增加　水管何個增加

四番員新水管ヲ持チ來リ之ヲ解キ結合ニ便ナル樣男捻ヲ二番員ノ方ニ出シ女捻ハ自分ニテ保持ス

四番員來レハ三番員ハ消火栓ニ至リ閉弁ス其間約二十秒乃至三十秒トス

水勢衰ヘタル時一番員「ヨシ」ト呼唱シ一、二番員協力管鎗ヲ脫シ三、四番員新水管ヲ結合ス

次テ一、二番員協力新水管ト管鎗トヲ結合シ終テ新位置ニ進入ス四番員ハ此間新水管ヲ介錯シ次テ一、二番員ニ續行ス

三番員再ヒ開弁セハ筒先位置ニ至ル

三、放水位置轉換　右(左)ヘ位置ヲ換ヘ

四番員ハ約十尺三番員ハ約二十尺後退シ水管ヲ介錯シ一、二番員協力新位置ニ就ク

四、注水方向變換　右(左)ヘ注水

要領三名ノ時ニ準ス

五、放水中止　止メ

消火栓ノ閉塞ハ三番員トス三番員ハ消火栓側ニアリ次ノ號令ヲ待ツ

其他三名ノ時ニ準ス

六、器具收納　收メ

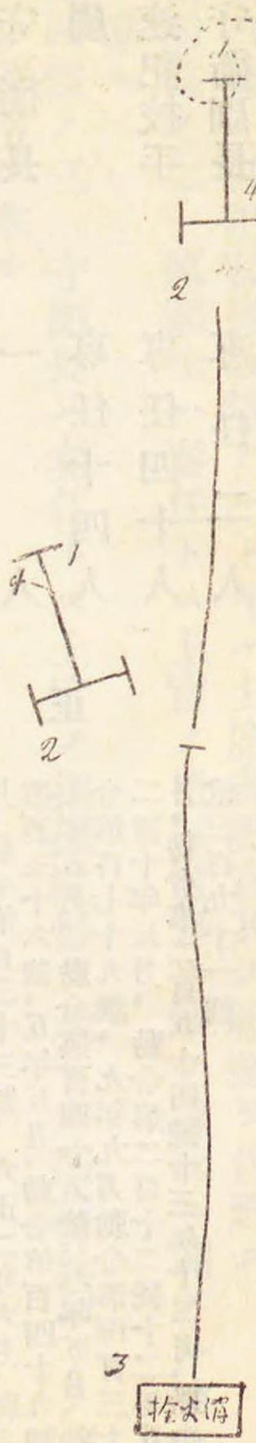
一、二番員ハ管鎗ヲ脫シ一番員ハ水管車ニ至リ管鎗ヲ收ム

次テ二、四番員ハ各水管結合ヲ解ク

三名水管車位置ニ至リ圖示ノ位置ニ就ク

增加水管ハ演習助手ニ處理セシム

三番員ハ消火栓ヲ處理ス



三名操作ノ要領ニテ水管ヲ纏絡ス若シ三番員早ク消火栓處理ヲ終了シタル場合ハ四番員ノ舊位ニ至リ水管纏絡ニ助力ス

途中水管結合ハ一番員ノ呼唱ニヨリ二、四番員ニテ結合ス全水管ヲ纏絡シ終レハ三名操法ニ準シ舊整列位置ニ至リ車後ニ整列ス

○衆議院事務局官制（明治二十三年七月 勅令第百二十二號）

第一條　衆議院事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

		改正
書記官長	一人	明治二十四年七月、勅令第百號、二十四年十一月、勅令第二百七號、二十六年十月、勅令第百六十六號、三十年十月、勅令第三百五十號、三十一年十月、勅令第三百八號、三十六年十二月、勅令第二百五十六號、四十三年三月、勅令第百三十三號、大正二年六月、勅令第百三十六號、五年五月、勅令第百四十九號七年五月、勅令第百四十八號　八年五月、勅令第百七十九號、九年九月勅令第四百三十二號十年五月、勅令第二百十二號十二年五月、勅令第二百五十四號十三年十二月、勅令電三百九十一號
書記官	專任四人	
速記士	專任一人	
守衛長	一人	
屬	專任十四人	
速記技手	專任四十人	
守衛副長	專任二人	

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄、筆記印刷、庶務會計警務等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第四條ノ二　速記士ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ速記ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條ノ三　守衛長ハ奏任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ守衛副長以下ヲ部署シ警務ヲ掌ル

第五條　屬及速記技手ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

第六條　（削除）

第七條　守衛副長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

屬定員以內ニ於テ技手二人ヲ置クコトヲ得（明治三十年十一月十九日 勅令第四百十四號）

○貴族院衆議院守衛定員及給與令

（明治四十年三月勅令第六十二號）

改正（明治四十三年四月勅令第二百十號、大正三年三月勅令第四十三號、五年六月勅令第百六十號、八年五月六日勅令第百八十號、九年八月二十六日勅令第三百三十一號、十年五月勅令第二百十三號、十三年五月勅令第二百五十五號、十三年一月勅令第四號、十三年十二月勅令第三百九十二號、十四年十二月五日勅令第三百二十二號）

第一條　守衛ノ定員ハ貴族院專任四十人衆議院專任四十人トス

前項定員ノ外議會開期中ニ限リ貴族院專任四十人衆議院專任六十人ヲ增置スルコトヲ得

第二條　守衛ノ月俸ハ三十圓乃至八十圓トス

最上額ヲ受ケ二年ヲ超エ事務練熟優等ナル守衛ニハ月額拾圓以內ヲ加給スルコトヲ得

第三條　削除

第四條　月俸ノ增給ハ拾圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　守衛班長タル守衛及通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル守衛ニハ前條ノ規定ヲ適用セス特別ノ事由アル場合ニ於ケル守衛ノ增給ニ付亦同シ

第五條ノ二　通譯其他特別ノ技能ヲ有スル守衛ニハ一箇月二十圓以內ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得

第五條ノ三　議會開期中非番ノ日又ハ常勤時間外ニ於テ勤務ニ服シタル守衛ニハ一日二圓以內ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得

第六條　守衛ニハ一箇月拾圓以內ノ宿料ヲ給スルコトヲ得

第七條　月俸ハ新任、增俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス

一　職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シタル者

二　身體若クハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ因リ退職ヲ命セラレタル者

三　休職ヲ命セラレタル者

四　在職中死亡シタル者

休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス

第八條　休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第九條　病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受ケル者ハ此ノ限リニ在ラス

第十條　本令ニ依ル給與細則ハ貴族院書記官長及衆議院書記官長各之ヲ定ム

附　則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

貴族院衆議院守衛定員竝俸給令ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受ケル月俸額ヲ給セラルルモノトス

附　則（大正九年勅令第三百三十一號）

本令ハ大正九年八月分ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ハ現ニ受クル俸給額ニ付大正九年勅令第二百五十七號附則第二項第五號乃至第七號及第三項ノ規定ニ準シ算出シタル金額ノ俸給ヲ受クルモノトス但シ其金額ニ圓位未滿ノ端數アルトキハ之ヲ圓位ニ滿タシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十四年十二月五日勅令三二二號）

○貴族院及衆議院守衛待遇（明治二十四年十一月勅令第二百八號）

貴族院及衆議院守衛ハ判任官ヲ以テ待遇ス

○貴族院並衆議院守衛懲罰（明治二十四年十二月勅令第二百三十九號）

貴族院並衆議院守衛ノ懲罰例ニ依ル

參照

巡査懲罰例（明治九年八月五日內務省令乙第九十二）

第一條　凡職務ノ規則ニ違反シ及ヒ怠慢失誤アルモノハ其情狀ヲ審按シ俸給一ヶ月百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月ヨリ多カラサル罰金ヲ科シ輕キ者ハ呵責ニ止ム

第二條　凡犯狀ノ職務ヲ耽カシムルニ係ル者ハ免職ス

第三條　凡罰金未タ完納セサル中免職死亡等ニ係ルモノハ追徵スルコトヲ免ス

第四條　凡罰金ハ毎月ノ俸金ヲ控除シテ完納セシム

但月俸ノ三分ノ一ヲ過クルコトヲ得ス

第五條　凡官物ヲ遺失及ヒ毀損スル者ハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

○奏任文官特別任用令

（兩院守衛長特別任用）

奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官ニ在職シテ行政事務ニ從事シ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者ヨリ高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

○判任文官特別任用令

（兩院守衛副長特別任用）

貴族院又ハ衆議院ノ守衛副長ハ三年以上貴族院又ハ衆議院ノ守衛ノ職ニ在リ普通試驗委員ノ詮衡ヲ經タルモノヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

○衆議院守衛採用規則

（明治三十年十一月改正　四十年五月修正）

第一條　守衛ハ左ノ體格竝ニ學術試驗ニ合格シタル者ヨリ之ヲ採用ス

一　體格身體健全ニシテ身幹五尺二寸以上ノモノ

二　法律　議院法刑法刑事訴訟法ノ大要

三　作文　假名交リ論文及普通往復文

四　算術　四則比例

五　筆跡　楷書行書

第二條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ル者ハ守衛ニ採用スルヲ得ス

一　年齡二十一年未滿及四十五年以上ノモノ

二　破產者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サルモノ又ハ身代限ノ處

分ヲ受ケ其ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

三　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノ

四　官吏懲戒例又ハ其ノ他ノ懲罰例ニ依リ免職後二ケ年ヲ經サルモノ

五　現ニ政社員タルモノ

第三條　左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルモノハ試驗委員ノ銓衡ヲ經試驗ヲ用ヰスシテ採用スルコトアルヘシ

一　判任官以上ノ職ヲ奉シタルモノ及文官任用令第六條ニ依リ判任文官タルノ資格ヲ有スルモノ

二　衆議院ノ守衛退職後三ケ年ヲ經過セサルモノ

三　巡査看守ニシテ精勤證書ヲ有スルモノ

四　陸軍上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スルモノ

第四條　守衛採用試驗ハ文官普通試驗委員之ヲ行ヒ試驗ニ關スル庶務ハ書

記ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第五條　守衛ニ採用セラルルトキハ身元保證書及誓書ヲ差出サシムヘシ

第六條　身元保證人ハ二人トシ東京府下ニ住シ一家計ヲ立ツルモノニシテ郡區長ノ證明ヲ要ス貴族院衆議院ノ判任官以上ノ保證ニアリテハ此限ニアラス守衛ハ保證人タルコトヲ得ス

第七條　志願書履歴書身元保證書及誓書書式左ノ如シ（用紙美濃紙二ツ折）

（志願書書式）

志願書

何府縣何郡何區何町村何番地（士族平民）或ハ何某幾男

當時東京府何郡區何町村何番地寄留（止宿）何某方

何某　生年月日

右ハ今般貴院守衛奉職志願ニ候間御試驗ノ上御採用被下度此段奉願候也

年　月　日

氏　名　實　印

衆議院書記官長何某殿

（用紙美濃紙二ツ折）

（履歴書　）

履　歴　書

拜命若クハ就學退學年月日	辭令案又ハ修學科目	官衙名又ハ學校名若クハ塾名教員氏名
年　月　日	何官廳何々（官名月俸詳細記ス）	何　官　廳
年　月　日	何々	何々

右相違無之候也

年　月　日

氏　名　實　印

（用紙美濃紙二ツ折）

（身元保證書書式）

身元保證書

印紙

何廳府縣士族平民

氏　名

右今般守衛ニ御採用相成候ニ付同人ノ身上ニ就テハ拙者共一切引受可申萬一本人不都合ノ義有之節ハ拙者共ニ於テ辨償可仕候也

年　月　日

族籍又ハ寄留地

保證人　何　某　實　印

肩書同上

保證人　何　某　實　印

（誓書書式）

衆議院書記官長何某殿

右保證人何某ハ當郡區內ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

東京府何郡區長　何　某　印

誠意赤心衆議院書記官長及守衛長ニ對シ左ノ事項ヲ誓フ

一　謹テ職務規則及上官ノ命令ヲ遵守スルコト

二　職務上權限外ノコトヲ論議セサルコト

三　素行ヲ修メ守衛タルノ品位ヲ保ツコト

四　人ニ接スルニ慇懃事ヲ視ルニ嚴正ナルコト

五　五ケ年未滿ニシテ辭職セサルコト

以上

氏名　實印

○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

（明治三十年十月勅令第三百五十五號、改正大正五年十二月二十五日勅令第二百六十一號）

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制別表ノ通定ム

貴族院衆議院守衛ノ給與品及貸與品ニ關スル規定ハ貴族院書記官長衆議院書記官長各之ヲ定ム

守衛長守衛副長守衛服制圖例

帽		正	名稱	地質	日章	眼庇	頤紐	横章	製式	形狀
守衛	守衛副長	守衛長		濃紺絨	金色徑一寸五分	革表黑裏萠黃	黑革幅三分	金線平打	大線幅五分一	下部高サ一寸八分大小線並ニ各小線ノ間隙一分頂端線ハ喰ミ出シニ附ス	如圖
同	同	同			銀色徑一寸五分	同	三厘釦金色圓形內ニ日章ヲ附ス徑三分	大線幅五分一	同	同
同	同	同			同	同	黑革幅三分三厘釦銀色圓形內ニ日章ヲ附ス徑三分	銀線平打大線五分蛇腹組一厘五分	大條頂端線幅五分一小條頂端線幅三分一五厘	同	同

名稱	地質	側	章	製	式	形狀
正 守衛長	濃紺絨	金平織幅六分一條	長靴踵ノ上際ニ止ル大小物入兩股各一箇ヲ附ス	長五寸五分總座幅四寸一分總テ金線製總座ニ徑八分ノ金色略日章一箇ヲ附シ肩當幅二寸上ニ徑五分金色櫻花一箇ヲ附ス總ハ金籠目線、前總ハ長一寸徑三分ノモノ二十三條裏總ハ長八分徑一分五厘ノモノ二十二條ヲ附シ金色徑四分ノ鈕釦一箇ヲ附ス	如圖
肩章 守衛長						
正 守衛副長	濃紺絨	金平織幅六分一條	長靴踵ノ上際ニ止ル大小物入兩股各一箇ヲ附ス	總テ銀線製銀色、略日章櫻花ヲ附セス總ハ銀籠目線銀色鈕釦餘ハ同	同	
肩章 守衛副長						
袴 守衛	同	白絨幅六分一條	同			
名稱	製	式	形狀			
刀 守衛長	柄ハ藍鮫絲金線ヲ纏フ背面ヲ覆フ金具ハ金色地ハ石目櫻唐草ヲ置ク鍔ハ金色櫻唐草鞘ハ鐵ヲニツケル鍍トシ兩箇ノ釣鐶ヲ附ス中身ハ錬鐵	如圖				
刀 守衛副長	同	同				

名稱	地質	釦	襟章 品質	襟章 裝式	袖章 品質	袖章 裝式	製式	形狀
正 守衛長	濃紺絨	金色圓形内ニ日章ヲ附ス徑七分五厘	大線金平織幅四分小線銀平織幅二分	上線側ハ大線一條下ハ小線一條ニ接シテ上線ハ一條側ハ大線一條ニ接シテ小線ハ一條ヲ附ス	大線金平織幅五分小線金平織幅三分	大線ハ一條袖先ヨリ曲尺二寸上リニ三條ヲ附ス環形ニ沿フテ一條ヲ附ス	襟幅一寸四分袖長一寸四分腕長ヲ以テ一度ト延ル腕ヲ垂レ指先ニ止ル	如圖
衣 守衛副長	同	同	同	同	同	大線ハ一條袖先ヨリ曲尺二寸上リニ三條ヲ附ス環形ニ沿フテ一條ヲ附ス	同	同
衣 守衛	同	同	大線銀平織幅二分小線銀平織幅二分	上線側ハ大線一條下ハ小線一條ヲ附ス	大線銀平織幅三分小線銀平織幅五分小線銀平織幅三分	大線ハ一條袖先ヨリ曲尺二寸上リニ三條ヲ附ス環形ニ沿フテ一條ヲ附ス	同	同

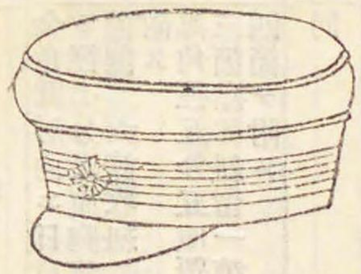
名稱	品質	製式	形狀
刀帶 守衛長	表ハ黑護謨革裏ハ藍革製トシ長適宜幅一寸釣革ノ長第一ノ分八寸第二ノ分二尺二寸ニシテ幅七分其ノ下端ニ茄子鐶ヲ附ス締輪幅五分前金具ノ左右ニ各一箇ヲ附ス前金具ハ徑一寸三分五厘中央日章ヲ置キ其ノ周圍ハ櫻唐草トス金具ハ總テ金色	同	同
刀帶 守衛副長	同		同
刀緒 守衛長	總頭金線橢圓壺形長一寸五分徑九分緒ハ金線丸打紐徑一分五厘長三尺二寸ヲ折返シ兩端ヲ合シ總ヲ附ス緒締ハ金線丸組紐幅三分五厘圓徑四分五厘		同
刀緒 守衛副長	總頭銀線長一寸三分徑八分緒及緒締ハ銀線餘ハ同		同
飾帶 守衛長	白絹絲線三條緋絹絲線四條幅各二分五厘ノ筋織	七十條ノ緋絹絲繩長胴ノ周圍ヨリ長キコト約一尺日綯帶ハ緋絹絲組長帶共六寸圓徑一寸二分	如圖
飾帶 守衛副長	八寸留金具ハ金色トシ帶ト同質ノ覆ヲ附シ兩端ヨリ約三寸ヲ隔テデ各一箇ヲ附ス		
略袴 守衛長	正袴ニ同シ	正袴ニ同シ	如圖
略袴 守衛副長			

名稱	地質	釦	袖章	製式	形狀
身袴 守衛長	白布				同
身袴 守衛副長		同			
身袴 守衛					
甲種外套 守衛長	表濃紺絨裏適宜	金色圓形內ニ日章ヲ附シ徑七分五厘胸部十二箇側六箇收紐二箇ヲ附ス黑角徑五分五厘覆面留三箇襟部紐留一箇後裂四箇ヲ附ス	金色略日章袖先ヨリ曲尺三寸上リノ所左右二箇ヲ附ス但シ日章徑六分	長靴踵ノ上際ヲ距ルコト大約八寸襟幅二寸袖長腕關節ヨリ延ルコト五分物入前面左右各一箇ヲ附ス	如圖
甲種外套 守衛副長	同		同一箇ヲ附ス		
甲種外套 守衛	同	同		同	同
乙種外套 守衛長	同	金色圓形內ニ日章ヲ附ス徑五分胸部三箇ヲ附ス襟ニ五箇ヲ附ス		長手甲ノ隱ルヲ以テ度トス襟幅二寸	
乙種外套 守衛副長					
乙種外套 守衛					

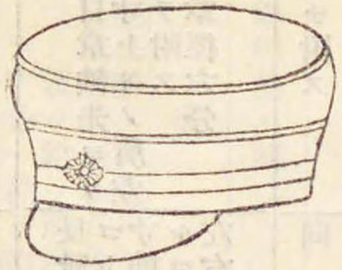
名稱	地質	製式	形狀
日覆 守衛長 守衛副長 守衛	薄白布	帽ノ形ニ從ヒ上部ノミヲ覆フ	如圖

正帽

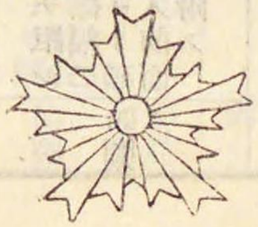
守衛長
守衛副長
但守衛副長ハ横線大小二線トス



正帽



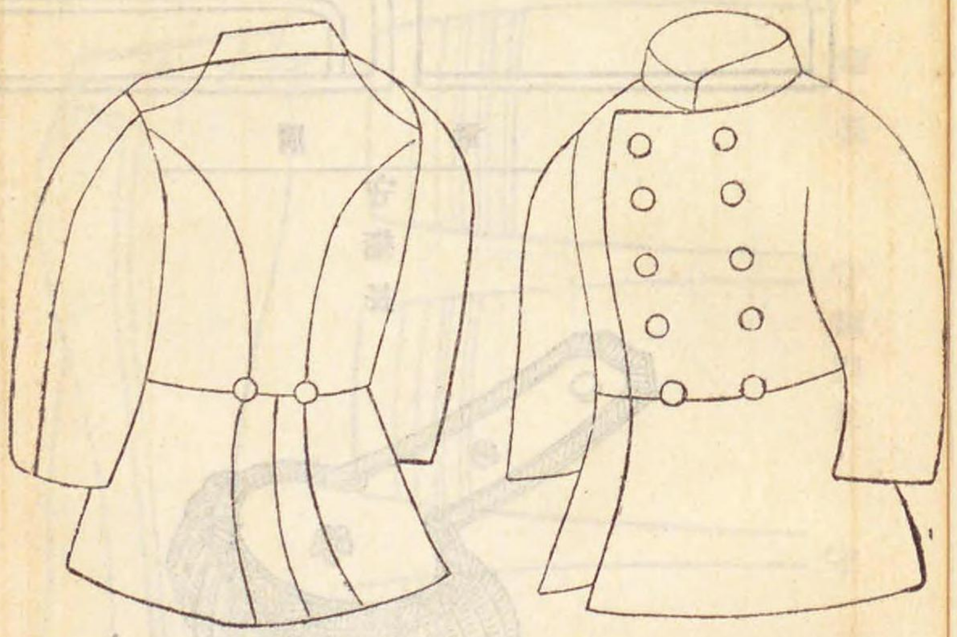
日章



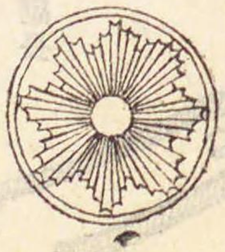
正衣

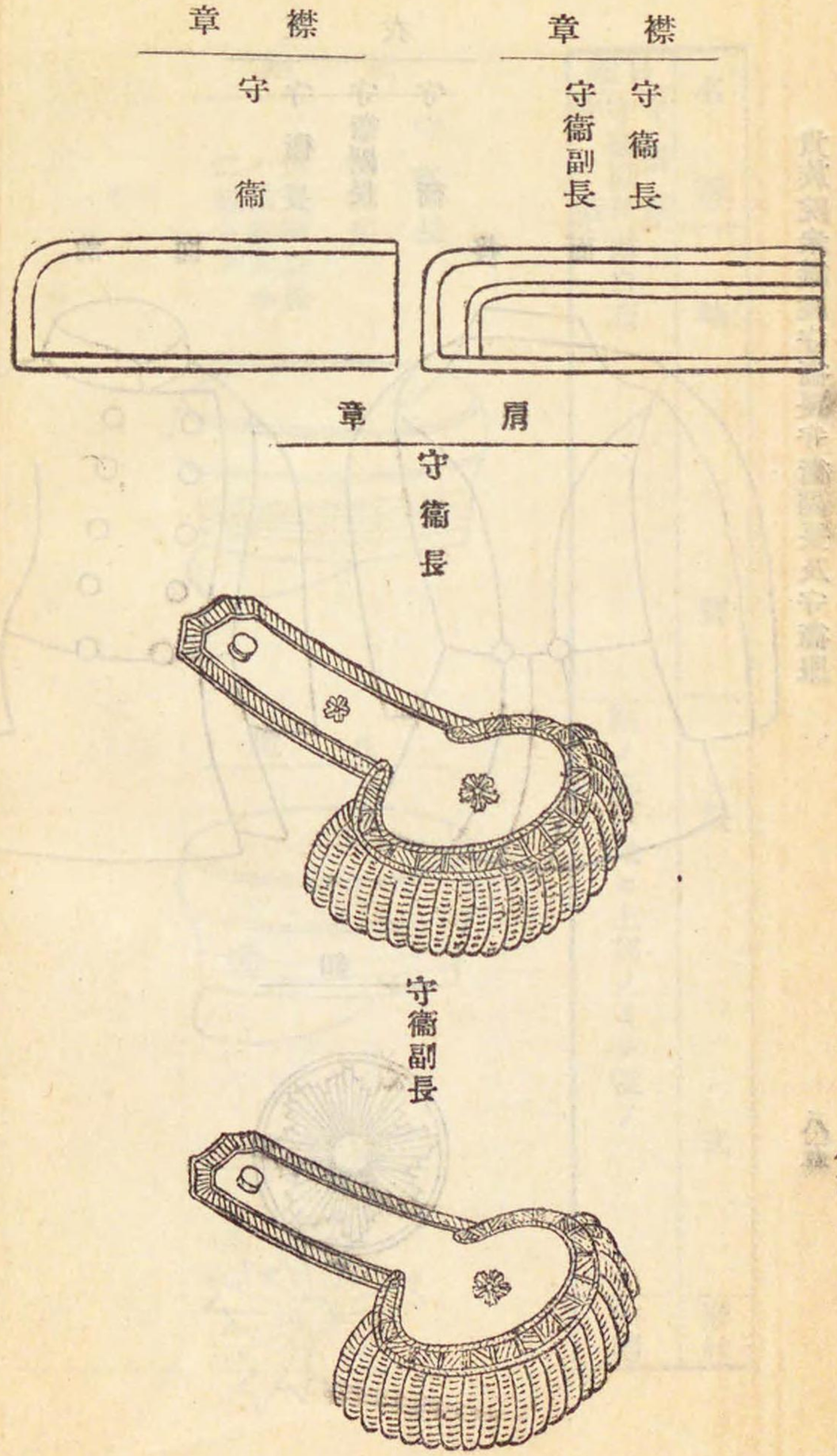
守衛長
守衛副長
守衛

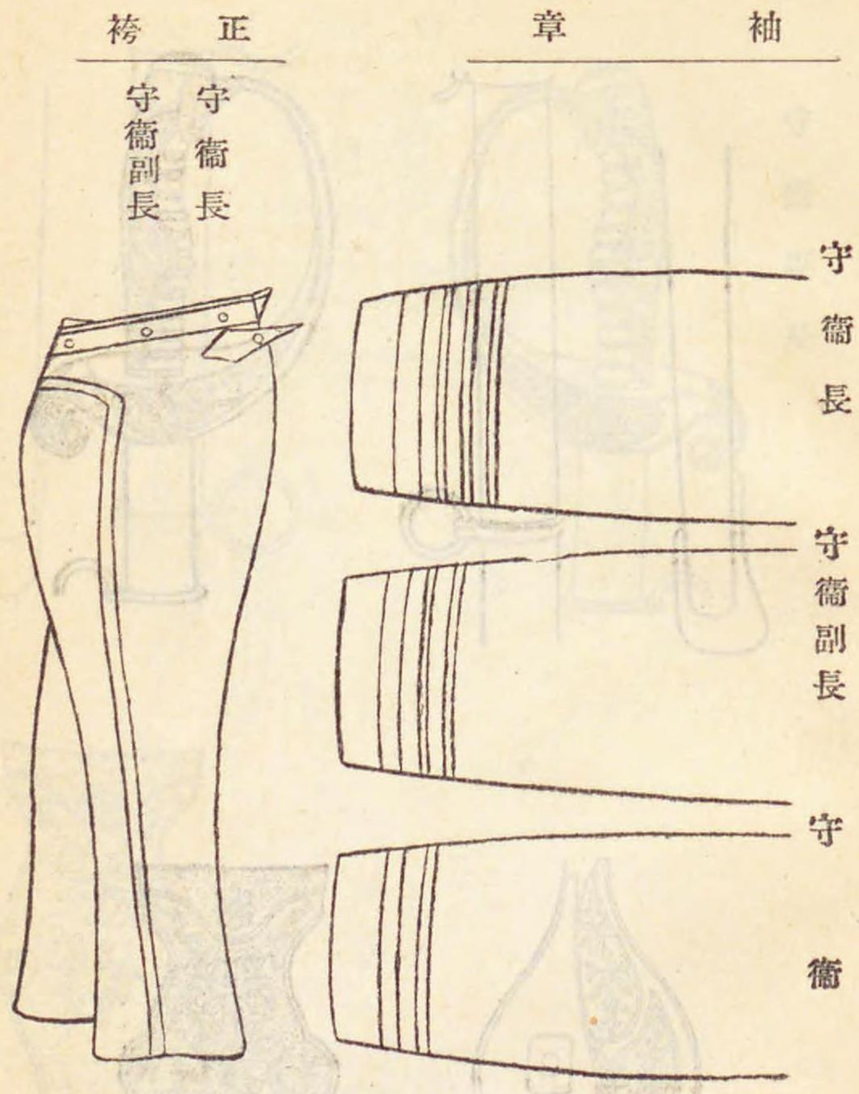
前面　後面

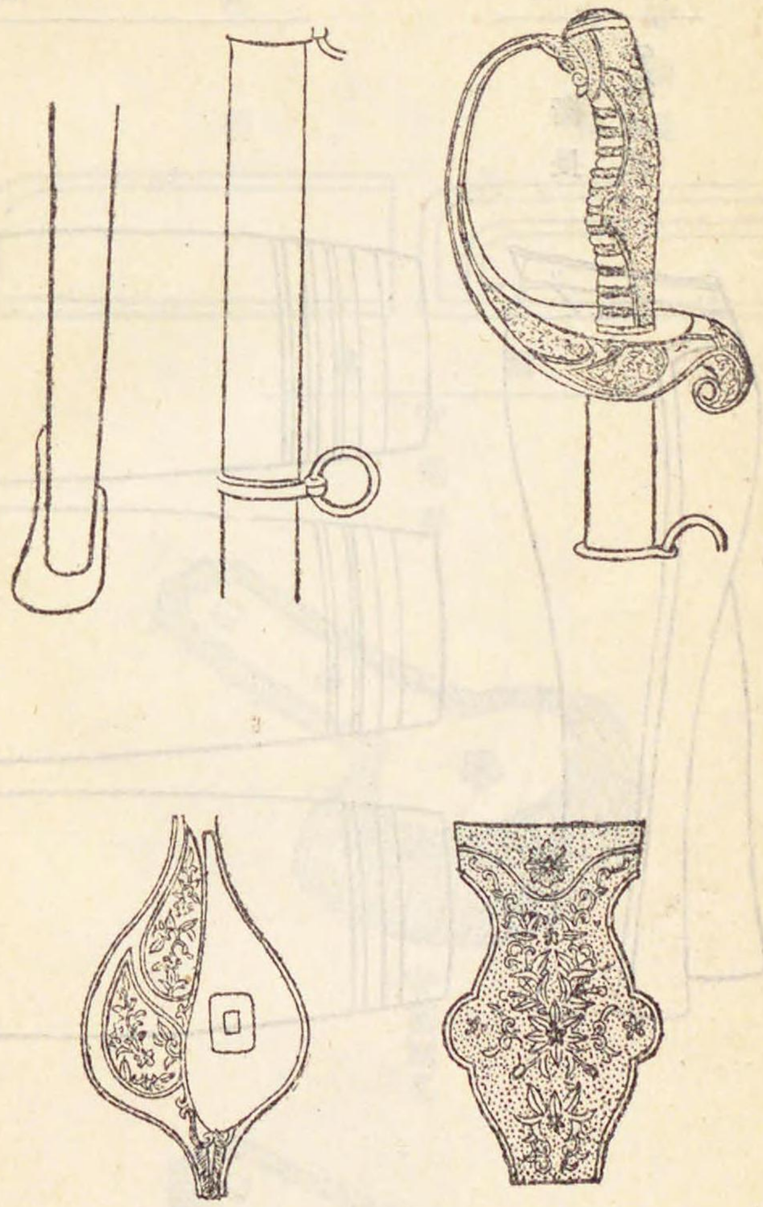


釦

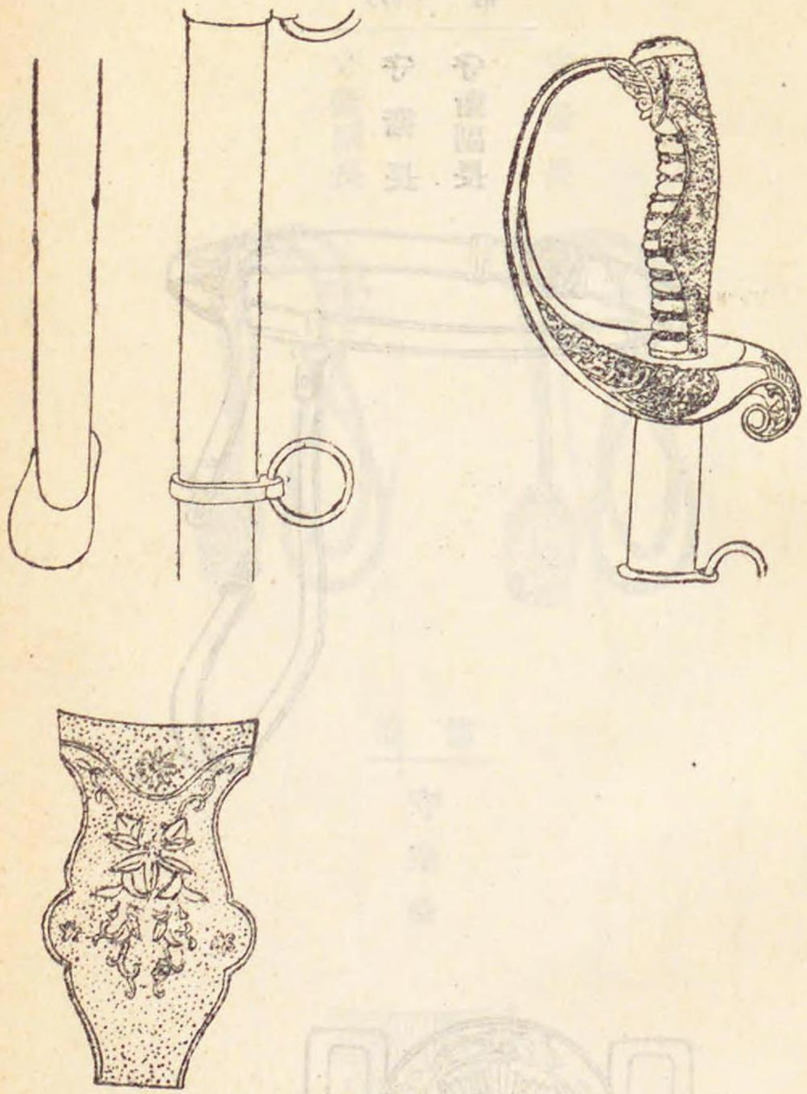



襟章
守衛長
守衛副長
襟章
守衛
肩章
守衛長
守衛副長


正袴
守衛長
守衛副長
袖章
守衛長
守衛副長
守衛



守衛長

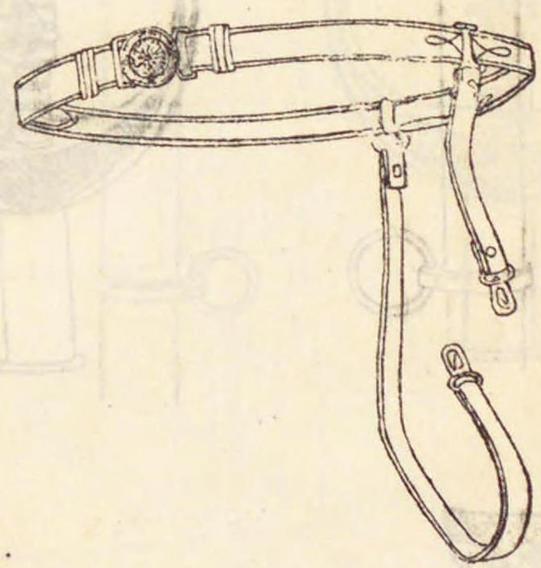


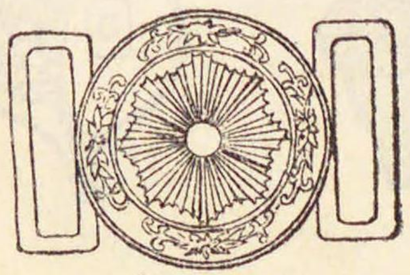
守衛副長

貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服制

刀帶

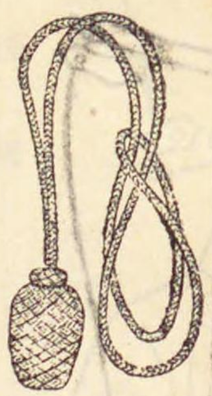
守衛長
守衛副長



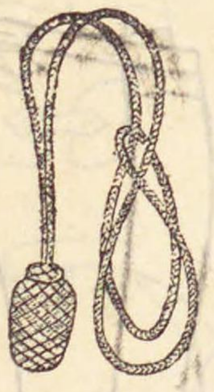


刀緒

守衛長

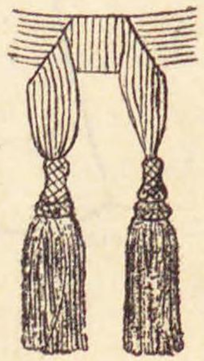


守衛副長



飾帶

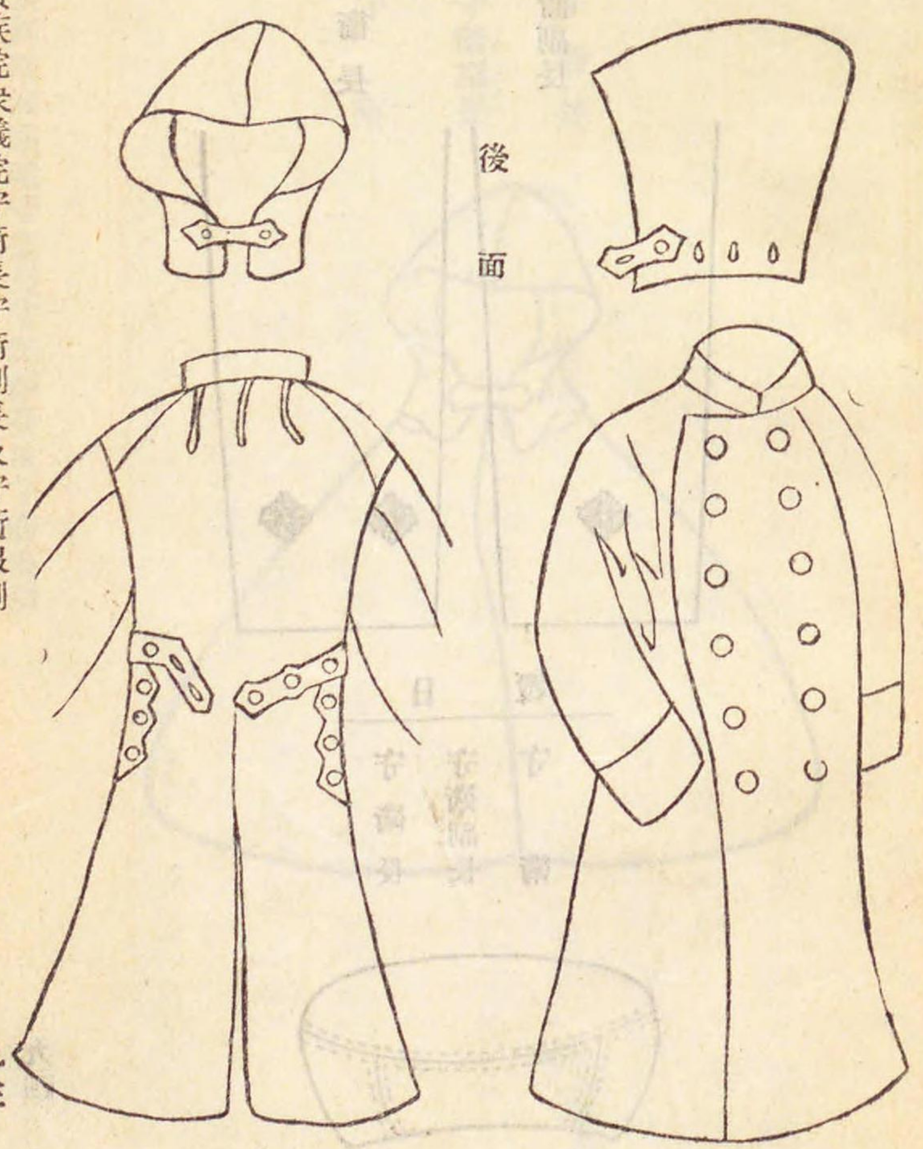
守衛長



甲種外套雨覆

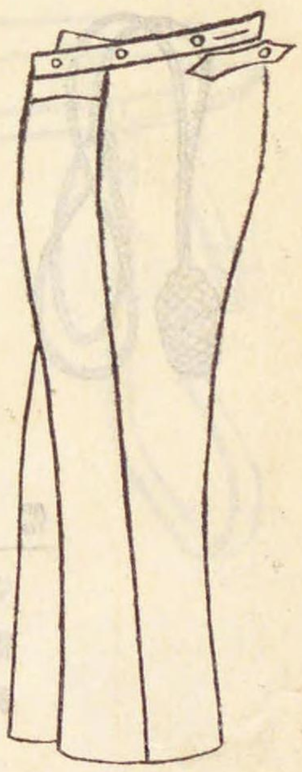
守衛長　　守衛副長　　守衛

後面



略袴

守衛長　　守衛副長



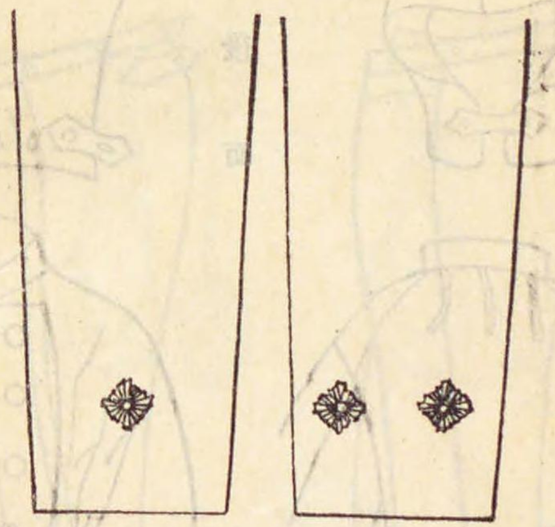
正袴

守衛

外套袖章

守衛長

守衛副長

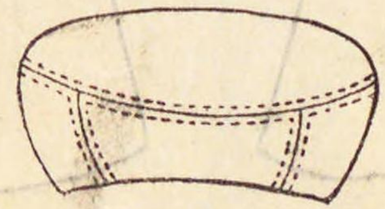


日覆

守衛長

守衛副長

守衛

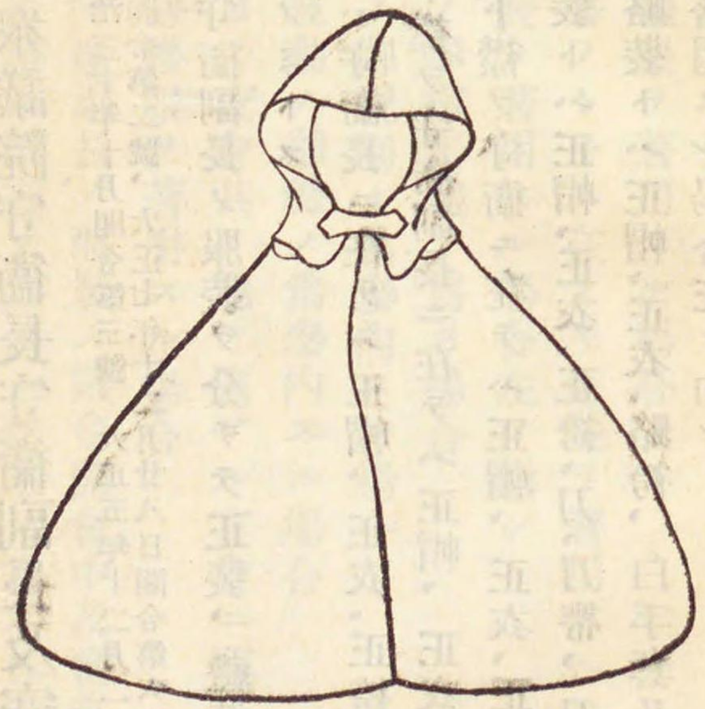


乙種外套

守衛長

守衛副長

守衛



○貴族院衆議院守衛長守衛副長及守衛服裝

規則（明治三十年十月閣令第三號、大正五年十二月二十六日閣令第二號、大正七年十二月廿八日閣令第六號）

第一條　守衛長守衛副長ノ服裝ヲ分チテ正裝、禮裝及略裝ノ三種トシ守衛ノ服裝ハ正裝ノミトス

第二條　正裝トハ守衛長ニ在テハ正帽、正衣、正袴、肩章、刀、刀帶、刀緒、飾帶、白手套及下襟ヲ守衛副長ニ在テハ正帽、正衣、正袴、肩章、刀、刀帶、刀緒、白手套及下襟ヲ守衛ニ在テハ正帽、正衣、正袴、白手套及下襟ヲ著用スルヲ謂ヒ禮裝トハ正帽、正衣、正袴、刀、刀帶、刀緒、白手套及下襟ヲ著用スルヲ謂ヒ略裝トハ正帽、正衣、略袴、白手套及下襟ヲ著

第三條　正裝ヲ著用スル場合左ノ如シ

一　新年參賀

二　三大節參賀及祭典參拜

三　敍位敍勳及之ニ均シキ場合

四　一般ニ大禮服ヲ著用スル場合

守衛ハ總テ勤務ノトキニ在テモ正裝ヲ著用スヘシ

第三條ノ二　禮裝ヲ著用スル場合左ノ如シ

一　行幸行啓ノ奉送奉迎ヲ爲ス場合

二　歲末其他ノ御祝詞ノ爲參內スル場合

三　任官敍位敍勳ノ御禮ノ爲參內スル場合

四　天長節祝日ノ夜會其ノ他ノ廉アル宴會ニ臨ム場合

五　一般ニ通常禮服ヲ著用スル場合

第四條　守衛長守衛副長ノ略裝ハ議會開會中及當直勤務ノ際著用スヘシ

第五條　外套及覆面ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ日覆ハ炎暑ノ際ニ限リ著用

スヘシ

但儀式祭典ノ場所及上官ノ室内又ハ議場、傍聽席ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條　靴ハ黑色革製ニ限ルモノトス

第七條　外套ヲ携帶スルニハ附屬品ヲ内ニ納メ適宜捲取シ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋下ニ掛クルモノトス

○守衛給與品及貸與品規程

第一條　守衛ニハ服制竝ニ服裝規則ニ依リ被服ヲ給與シ及服務ニ必要ナル物品ヲ貸與ス

第二條　給與被服ノ種類員數及使用期限ハ左ノ各項ニ據ル

但使用期間ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

一帽	壹個	十二箇月
一冬服	壹組	八箇月（自十月至五月）
一夏服	壹組 但袴二著	四箇月（自六月至九月）
一甲種乙種外套	壹襲	二十四箇月
一日覆	壹枚	四箇月
一手套	貳個	十二箇月
一下襟	四個	十二箇月
一冬肌著	壹組	八箇月（自十月至五月）
一夏肌著	壹組	四箇月（自六月至九月）
一靴下	十二足	十二箇月
一長靴	壹足	十八箇月
一短靴	壹足	六箇月

第三條　前條ノ使用期間ハ月割計算トシ其期間滿了ノ翌月ニ至リ之ヲ給與スヘシ

第四條　貸與物品ノ種類ハ左ノ如シ

一帽章
一被服ノ釦
一外套締革
一手帳
一捕繩
一呼子笛

第五條　過失怠慢ニ依リ給與品ヲ毀損亡失シタルトキハ修補又ハ代納辨償セシム

第六條　貸與ノ物品ハ貸與ノ事由止ミタルトキハ之ヲ返納セシム使用期間ノ終ラサル給與被服モ亦同シ

但精勤者ニハ特ニ之ヲ給與スルコトアルヘシ

附　則

第七條　本規程第二條ニ依リ給與スヘキ被服中手套以下ハ左ノ料金以内ヲ以テ一箇年ノ見積價格十二分ノ一宛ヲ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

一手套　壹個ニ付　金拾五錢
一下襟　壹個ニ付　金五錢
一冬肌著　壹組ニ付　金七拾錢
一夏肌著　壹組ニ付　金六拾錢
一靴下　壹足ニ付　金五錢
一長靴　壹足ニ付　金參圓
一短靴　壹足ニ付　金貳圓

○守衛勤務手當支給規則

（大正十四年十二月二十三日決定）

第一條　守衛ニハ議會開期中本規則ノ定ムル所ニ依リ勤務手當ヲ支給ス

第二條　勤務手當ヲ分チテ左ノ二種トス

一、非番勤務手當
二、時間外勤務手當

非番勤務手當ハ宿直明番ニ相當スル日ニ於テ午後ニ亘リ勤務ニ服シタル場合ニ之ヲ支給ス

時間外勤務手當ハ午後七時以後ニ於テ勤務ニ服シタル場合ニ之ヲ支給ス

但シ當日宿直番ニ相當スル者ニハ之ヲ支給セス

第三條　勤務手當支給額ハ左記各號ニ依ル

一、非番勤務手當ハ日額壹圓トス

二、時間外勤務手當ハ勤務時間一時間ニ付午後九時ニ至ル迄二十錢午後九時ヲ過クルトキハ二十五錢トス

第四條　勤務手當ハ左記各號ニ依リ計算シ給料支給定日ニ之ヲ支給ス

一、非番勤務手當ト時間外勤務手當ハ各別ニ計算シ之ヲ併給スルコトヲ妨ケス但シ一日總額貳圓ヲ超ユルコトヲ得ス

二、時間外勤務手當ハ各日ニ於ケル實際勤務時間數ニ據リ計算ス但シ勤務時間一時間ニ滿タサル場合ニ於テ端數二十分以上ナルトキハ之ヲ一時間トシテ計算ス

第五條　衆議院書記官長ハ勤務ノ狀況其ノ他ノ事情ニ依リ勤務手當ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

○貴族院竝衆議院守衛長及守衛副長宿舍料（大正十年一月十二日勅令第三號）

貴族院又ハ衆議院ノ守衛長又ハ守衛副長ヲ居住セシムヘキ官舍ナキトキハ貴族院書記官長又ハ衆議院書記官長ノ指定スル區域ニ之ヲ居住セシム此ノ場合ニ於テハ守衛長ニハ月額三十圓以内守衛副長ニハ月額十五圓以内ノ宿舍料ヲ給スルコトヲ得

○守衛宿料支給規則（大正五年四月一日制定　大正十二年二月八日第一條改正）

第一第　守衛ニハ宿料一ヶ月五圓ヲ支給ス

第二條　病氣又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサル者ノ宿料ノ給與法ハ守衛給與令第九條ノ例ニ依ル

第三條　宿料ハ任命ノ翌日ヨリ休職轉免死亡ノ當日迄之ヲ支給ス

但シ守衛給與令第七條各號ノ一ニ該當スル者ニハ其全額ヲ給ス

第四條　軍務ノ爲メ召集セラレタル者ニハ出發ノ當日ヨリ歸院ノ前日迄宿料ヲ支給セス

○宿直及徹夜賄料給與規則（大正七年四月一日決定）（大正九年一月二十六日改正）

宿直及徹夜賄料　原品又ハ代料ハ左ノ各項ニ據ル

一　官吏ハ金貳拾五錢

二　守衛雇等ハ金拾七錢但シ守衛班長及月俸二十五圓以上ノ雇員ハ金貳拾五錢

三　小使車夫等ハ拾五錢

○豫備後備ノ軍籍ニ在ル貴族院及衆議院ノ守衛ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルモノニ休職ヲ命スルノ件（明治三十七年四月勅令第百二十二號）

戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル貴族院及衆議院ノ守衛ニハ其間休職ヲ命スルコトヲ得

前項休職中ノ日數ハ在職年數ニ算入ス第一項ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ノ額休職ヲ命セラレタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナル時ハ其不足額ニ相當スル金額以內ノ休職給ヲ給スルコトヲ得

○官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シテ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉恥ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同樣トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ祕密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ルルコトヲ得ス

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給竝贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ揭ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗宴ヲ受クルコトヲ得ス

一官廳ノ工事ヲ受負フ者

一官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一官廳ノ補助金ヲ受クル起業者

一官廳ノ用品ヲ調達スル者

一官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　浪費シテ產ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域內ニアラサル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ムルトキハ事狀ヲ具ヘチ之ヲ本屬長官ニ稟告スヘシ其情ヲ知リ隱蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レス

第十七條　本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

○巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令

（明治三十四年七月、改正三十八年第三十九號、勅令第百四十九號、大正四年第三十五號、）

第一條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ治療中療治料ヲ給ス療治料ハ一日貳圓以內トス但治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ精算シテ之ヲ追給スルコトアルヿシ

第二條　療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一　治療二十日以上ニ渉リ引續キ在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ
二　療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ扶助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ渉ラスト雖モ引續キ在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以内ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ

但治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限ニアラス

第三條　巡査又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一　配偶者
二　直系卑屬
三　直系尊屬
四　兄弟姉妹

前項親族ニシテ公權剝奪若クハ停止中ニ係リ又ハ行衞不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一ケ月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分二ヲ增加ス但職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ增加ス

勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ル

第四條　前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フ可キ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分一以内ヲ給スルコトアルヘシ

第五條　休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條　本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條　本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛、警視廳消防手及女監取締ニ之ヲ適用ス

附則（明治三十八年勅令第三十九號）

女監取締ハ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤續年數ハ巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ規定スル勤續年數ニ非サルモノト看做ス

○議院法拔萃（明治二十三年十月勅令第二百二十號）

紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退

去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ

訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

○衆議院規則拔萃

第十二章　警察及秩序

第一節　警察

第百七十一條　議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院內部ノ警察權ヲ施行ス

第百七十二條　守衛ハ議事堂內警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス

但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂內ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第百七十三條　院內ノ防火、點燈、導水、煖爐及衛生ニ關スル事項ハ守衛之ヲ監督ス

第百七十四條　議院内部ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フ可シ

但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

○刑事訴訟法拔萃

第一編　總則

第九章　被告人ノ召喚、勾引及勾留

第八十七條　左ノ場合ニ於テハ直ニ被告人ヲ勾引スルコトヲ得

一、被告人定リタル住居ヲ有セサルトキ

二、被告人罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ

三、被告人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ

五百圓以下ノ罰金拘留又ハ科料ニ該ル事件ニ付テハ前項第一號ノ場合ス

第百二十四條　檢事又ハ司法警察官吏其職務ヲ行フニ當リ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ犯人其場所ニ在リテ其ノ住居若ハ氏名分明ナラサルトキ又ハ第八十七條ノ第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ左ノ處分ヲナスヘシ

一、檢事ハ司法警察官吏ニ犯人ノ逮捕ヲ命スヘシ必要アル場合ニ於テハ自ラ之ヲ逮捕スルコトヲ得

二、司法警察官ハ直ニ犯人ヲ逮捕シ又ハ其逮捕ヲ司法警察官吏ニ命スヘシ

三、司法警察官吏ハ命令ヲ待タスシテ直ニ犯人ヲ逮捕スヘシ

除クノ外被告人ヲ勾引スルコトヲ得ス

但シ前條(勾引)及第百六條(被告人ノ出頭又ハ同行)ノ規定ノ適用ヲ妨ケ

第百二十五條　現行犯人其ノ場所ニ在ルトキハ何人ト雖之ヲ逮捕スルコトヲ得

犯人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ地方裁判所若ハ區裁判所ノ檢事又ハ司法警察官吏ニ引渡スヘシ

第百二十六條　司法警察吏現行犯人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取リタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘシ

司法警察吏犯人ヲ受取リタル場合ニ於テハ逮捕者ノ氏名、住居及逮捕ノ事由ヲ聽取ルヘシ必要アルトキハ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得

第百三十條　現ニ罪ヲ行ヒ又ハ現ニ罪ヲ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノヲ現行犯トス

兇器贓物其ノ他ヲ所持シ、誰何セラレテ逃走シ犯人トシテ追呼セラレ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料スヘキ場合ハ現行犯人其場ニ在リタルモノト看做ス

○刑法拔萃

第五章　公務員ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之レニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サザラシムル爲メ又ハ職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第八章　騷擾ノ罪

第百六條　多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
二　他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢力ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
三　附加隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百七條　暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章　住居ヲ侵ス罪

第百三十條　故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅建造物若クハ鑑船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七章　傷害ノ罪

第二百四條　人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百五條　身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第二百六條　前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勞ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百七條　二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサリシトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百八條　暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之レヲ論ス

第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條　公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條　他人ノ建造物又ハ鑑船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條　前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞シ又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

○恩給法（大正十二年十月一日施行）（全文略）

參照

巡査看守退隱料及遺族扶助料法（明治三十四年七月勅令第百四十八號、改正明治四十年五月勅令第百九十號、明治四十四年七月勅令第二百一號）（全文略）

○衆議院事務局分掌規程

（大正五年六月一日施行、同七年四月十二日、十二月七日改正、十年四月法律第四十三號、國有財産法公布ノ結果「官有財産管理」、「國有財産管理」ト爲ル十四年三月十四日衆議院規則改正ノ結果「及決議錄」ノ四字消滅）

第一條　衆議院事務局ニ左ノ六課ヲ置ク

祕書課
議事課
委員課
速記課
庶務課

警務課

第二條　祕書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議事日程、發言通告及諸般ノ報告ニ關スル事項

二　議案類、請願書及質問書ノ受理、議決議案ノ上奏送付ニ關スル事項

三　議員ノ闕席、請暇、辭職、補闕選擧請求ニ關スル事項

四　議長氏名ノ委員選定及辭任ニ關スル事項

五　議員名籍錄及議院要覽ノ編纂ニ關スル事項

六　正副議長ノ公印保管ニ關スル事項

第二條ノ二　議事課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本會議ニ關スル事項

二　議案類ノ調査ニ關スル事項

三　議事錄ノ編製ニ關スル事項

四　先例彙纂、議事摘要及事務報告書ノ編纂ニ關スル事項

第三條　委員課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　委員會ノ會議及部會ニ對スル事項

二　委員會及部會ノ文書調製會議錄編製ニ關スル事項

三　議事綜覽及委員會先例彙纂ノ編纂ニ關スル事項

第四條　速記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本會議及委員會會議ノ速記錄編製竝ニ速記者養成ニ關スル事項

第五條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　職員ノ身分進退及採用試驗ニ關スル事項

二　普通公文案ノ起草及調査ニ關スル事項

三　普通公文書類ノ受理ニ關スル事項

四　衆議院公報ノ編製ニ關スル事項

五　官報報告及統計ニ關スル事項
六　會計用度及國有財産管理ニ關スル事項
七　營繕ニ關スル事項
八　公文書類ノ出納保管ニ關スル事項
九　内外圖書記錄新聞雜誌ノ購入交換竝ニ出納保管及參考書編纂ニ關スル事項
十　議案類、請願文書表、委員會速記錄、衆議院公報等ノ配布ニ關スル事項
十一　官印保管ニ關スル事項
十二　他課ノ分掌事務ニ屬セサル事項

第六條　警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　議院内部ノ警察、取締及衞生ニ關スル事項

二　傍聽券及徽章ニ關スル事項
三　傭人ノ採用及監督ニ關スル事項
四　書類ノ接受發送及面會人ニ關スル事項

2605
8

5661

2602
8